

# 第11回久慈市議会定例会議会議録（第3日）

## 議事日程第3号

平成29年3月8日（水曜日）午前10時00分開議

### 第1 一般質問

市民共同代表 畑中 勇吉君  
創政・公明クラブ代表 桑田 鉄男君  
社会民主党 豊巻 直子君

## 会議に付した事件

### 日程第1 一般質問

### 出席議員（24名）

1 番 豊 巻 直 子君 2 番 岩 城 元君  
3 番 小 倉 利 之君 4 番 黒 沼 繁 樹君  
5 番 山 田 光君 6 番 上 山 昭 彦君  
7 番 泉 川 博 明君 8 番 澤 里 富 雄君  
9 番 二 子 賢 一君 10 番 下川原 光 昭君  
11 番 桑 田 鉄 男君 12 番 畑 中 勇 吉君  
13 番 佐々木 栄 幸君 14 番 砂 川 利 男君  
15 番 中 平 浩 志君 16 番 小野寺 勝 也君  
17 番 城 内 仲 悦君 18 番 山 口 健 一君  
19 番 八重櫻 友 夫君 20 番 下 館 祥 二君  
21 番 高屋敷 英 則君 22 番 宮 澤 憲 司君  
23 番 大 沢 俊 光君 24 番 濱 欠 明 宏君

### 欠席議員（なし）

## 事務局職員出席者

事務局長 澤口 道夫 事務局次長 及川 忠則  
議事係長 皆川 賢司 議事係主査 長内 紳悟

## 説明のための出席者

市長 遠藤 譲一君 副市長 中居 正剛君  
総務部長 澤里 充男君 総合政策部長 一田 昭彦君  
総合政策部次長 川合 政伸君 生活福祉部長 (兼)福祉事務所長 和野 一彦君  
産業経済部長 浅水 泰彦君 建設部長 (兼)水道事務所長 滝沢 重幸君  
会計管理者 古屋敷重勝君 山形総合支所長 鹿糠沢光夫君  
教育委員長 成田 不美君 教育長 加藤 春男君  
教育部長 中務 秀雄君 総務課長 (併)選管事務局長 夏井 正悟君  
財政課長 久慈 清悦君 政策推進課長 大崎 健司君

教育委員会 大橋 卓君  
教育総務課長

### 午前10時00分 開議

○議長（中平浩志君） ただいまから本日の会議を開きます。

直ちに本日の議事日程に入ります。

### 日程第1 一般質問

○議長（中平浩志君） 日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。市民共同代表、畑中勇吉君。

〔市民共同代表畑中勇吉君登壇〕

○12番（畑中勇吉君） おはようございます。市民共同の畑中勇吉でございます。第11回久慈市議会定例会議に当たり、会派を代表して、市政を取り巻く諸課題について、市長並びに教育長に質問をいたします。

第1の質問は、テレビ難視聴解消対策について、2点質問します。

質問の1点目は、市内61カ所の共聴施設の設備更新について支援策をお示しください。

質問の2点目は、国・県に対して、テレビ難視聴対策事業の復活を働きかけるべきと思うが、考えについてお尋ねいたします。

第2の質問は、台風第10号災害復旧について、4点質問します。

質問の1点目は、久慈川で流木が滞留した橋脚の改良及び流木捕捉工について要望する考えはないかお尋ねいたします。

質問の2点目は、災害等により国道281号が通行不能となった場合の代替路線を想定した、災害に強い道路整備の進め方についてお尋ねいたします。

質問の3点目は、環境保全と地すべり対策として斜面に笹竹を植栽する方法があるが、今後の取り組み方についてお尋ねいたします。

質問の4点目は、生活橋の復旧に対する市の考えについてお尋ねいたします。

第3の質問は、東日本大震災時に整備した漁船等の取り扱いについて、東日本大震災によるグループ補助

金や寄附によって整備された漁船・倉庫などの数はどれぐらいあったのか、また払い下げ等による使用者及び団体の税負担等の有無についてお尋ねいたします。

第4の質問は、災害時のドローンの活用について、ドローンを活用しての防災対策や操縦技師の養成についてお尋ねいたします。

第5の質問は、災害時の給油所確保策について、2点質問します。

質問の1点目は、市内給油所において、自家発電機等を備え、大規模停電時にも営業可能な店舗があるかお示ください。

質問の2点目は、被災者が災害時に給油できるよう、国では全国8,000カ所の給油所を選定し、自家発電機を整備するようであるが、災害時の避難所など拠点施設の確保のためにも、地域の小規模な給油所への整備についても対象とするよう要望すべきと思うが、考えをお尋ねいたします。

第6の質問は、久慈警察署の移転について、久慈警察署の移転計画があると仄聞するが、移転理由、移転後の現警察署の用地建物の利活用についてどのように捉えているのかお示ください。

第7の質問は、周産期医療について、2点質問します。

質問の1点目は、現在策定中の岩手県周産期医療体制整備計画にどのような要望をしているのかお尋ねいたします。

質問の2点目は、産科医師の確保に向けた取り組み状況について、お尋ねいたします。

第8の質問は、食肉産業について、2点質問します。

質問の1点目は、当市内の豚、鶏、食肉処理場の建設、改修計画、建設進捗状況と規模拡大に伴う雇用確保の見通しについてお示ください。

質問の2点目は、食肉産業の副産物である鶏の頭等を生餌としてワニの養殖を行い、革・肉生産やワニ観光を推奨すべきと思うが、考えをお尋ねいたします。

第9の質問は、新たな朝市などの企画について、八戸館花岸壁朝市のような広いスペースに駐車場を確保し、多くの出店ができるような場所での久慈朝市や夜市を企画すべきと思うが、今後の取り組みについてお尋ねいたします。

第10の質問は、八戸久慈自動車道について、工事区間で発生した宇津目坂付近の地すべりの状況をどのよ

うに捉えているのか、また地すべりによる久慈北工区の部分開通への影響について、お尋ねいたします。

第11の質問は、教育行政、学区の再編成について、学校が地域コミュニティに果たす役割や、学級の適正規模児童生徒数、生徒数が少ないため希望するクラブ活動ができない問題など、PTAや学区民から寄せられている要望・意見はどのような内容か。また要望・意見に対する市の見解と、学区再編へどのように反映させるのか、お尋ねします。

第12の質問は、山形小学校の改築について、2点質問します。

質問の1点目は、改築に係る検討の進捗状況をお示ください。

質問の2点目は、東日本大震災により優先度の順位が変更されたのはやむを得ないが、久慈湊小学校の建設計画も前進せず、教育行政全体が停滞している印象を受けるが、もっと積極的な対応を心がけるべきと思うが、ご所見をお伺いいたします。

最後に、この3月で退職されます職員の皆さんには、3・11大震災から災害が相次ぐ中、復旧復興に大変なご尽力をいただき、敬意と感謝を申し上げます。今後ともご自愛の上、引き続き市政発展のため、ご支援ご指導を賜りますようお願いを申し上げます。登壇しての質問を終わります。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 市民共同代表、畑中勇吉議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、テレビ難視聴解消対策についてお答えをいたします。

共聴施設の設備更新についての支援策と国・県への働きかけについてであります。市内61施設のうち、新設後20年を経過する施設で今後10年以内に改修が必要となる施設は22施設と見込んでいるところであり、その改修費用は、約6億円弱が必要と試算しております。ただし、この改修に係る国・県等の助成制度は現在のところ見当たらないところであり、各共聴施設組合において負担せざるを得ない現状であります。

今後、各共聴施設の運営につきましては、人口減少や高齢化などにより、より厳しさを増していくことが予想されることから、今年度の県に対する重点事項要望に盛り込んだところであり、引き続き、国・県に対

する助成制度を要望するとともに、他自治体の事例や技術的な手法などを研究しながら支援策を検討してまいります。

次に、台風第10号災害の復旧についてお答えをいたします。

まず、久慈川で流木が滞留した橋脚の改良についてですが、橋脚の改良は橋梁の管理者が行うものでありますので、J R八戸線の橋脚については、管理者である東日本旅客鉄道株式会社に要望していく考えであります。市道であります上の橋ほかの橋脚につきましては、財政事情等を勘案しながら、改良整備について研究してまいります。

流木に対する当面の対応につきましては、河川管理者である県北広域振興局から、久慈川では河川区域内の流木撤去、立木の伐採、河道掘削により流木被害を抑える考えであると伺っておりますが、岩泉町で計画している流木捕捉工の久慈川への設置に関する要望についても検討してまいります。

次に、災害等により国道281号が通行不能となった場合の代替路線の整備についてであります。昨年の台風第10号において、国道281号は、のり面崩壊や道路流出により長期間通行止めとなり、県道など迂回を余儀なくされ、市民生活に大きな影響が出たところであります。

市といたしましては、これまでも道路管理者であります岩手県に対して、道路の防災対策の充実や抜本的改良整備について要望してきたところでありますが、それに加え、代替路線など災害に強い道路整備につきましても強く要望してまいります。

次に、環境保全と地すべり対策として、斜面の安定に笹竹を利用することについてであります。道路工事などののり面保護は、地形、地質、地下水の状況などを勘案して工法を選択しているところであります。ご提案のありました笹竹を植栽する方法につきましては、今後、公共工事での施工実績や維持管理など多面的に検討してまいります。

次に、生活橋の復旧に対する市の考え方についてありますが、台風第10号災害によって流出または損壊した宅地等に入出入りするための個人所有の生活橋等は、およそ20カ所と捉えており、復旧には大きな負担を伴うものと推察しております。生活橋は市民の生活再建に欠かすことのできない生活道路の一部であり、当市、

宮古市、岩泉町で組織する平成28年台風第10号豪雨災害復旧復興期成同盟会等により、国県への復旧の財源措置について要望を行っているところであります。

次に、東日本大震災時に整備した漁船等の取り扱いについてお答えをいたします。

漁船につきましては、共同利用漁船復旧支援事業により214隻、函館義援船の一部79隻が、それぞれ整備され、合計で293隻となっており、このうち久慈市漁業協同組合が整備した214隻は、漁業者に対して貸与中であると同組合から伺っているところであります。倉庫等につきましては、水産業経営基盤復旧事業等の整備により7棟、中小機構仮設施設整備事業により23棟の、合計で30棟となっております。

なお、グループ補助金につきましては、申請窓口が岩手県となっており、整備内容は市に通知されておりませんので、ご了承願います。

また、整備後、5年を経過した仮設施設につきましては、利用者への譲渡が可能となりますことから、市におきましては、現在の利用者に対して無償で譲渡する考えであります。固定資産税等の税負担は、譲渡を受けた各事業者に生じるものであります。

次に、災害時のドローンの活用についてお答えいたします。

ドローンは、操作が比較的簡易であり、ホバリング等が可能のため、上空からの撮影が容易に行えることから、災害の状況や山林火災での調査等に有効であると捉えており、今後、その活用策について検討を進めてまいります。

次に、災害時の給油所確保策についてお答えいたします。

まず、市内給油所における自家発電機の設置状況であります。6給油所が設置している状況であります。

また、地域の小規模な給油所への自家発電機の整備についてであります。当事業は資源エネルギー庁が住民拠点サービスステーション整備補助事業として進めているものであり、申請要件には給油所の規模の規定はないと岩手県石油商業協同組合から伺っているところであります。

次に、久慈警察署の移転についてお答えいたします。

久慈警察署は、昭和48年に建設され、施設の老朽化が進むとともに、平成7年の県北運転免許センターの設置により、用地が手狭となっているものと捉えてお

ります。こうした状況を踏まえて、岩手県では移転を検討しているようですが、現時点では具体的な内容は承知していないところでありますのでご了承願います。

なお、今後、岩手県において移転計画が定まり次第、具体的に説明をいただけるものと考えております。

次に、周産期医療についてお答えをいたします。

まず、岩手県周産期医療体制整備計画策定に向けた要望についてであります。県に対しては、重点事項要望として、ハイリスク分娩についても県立久慈病院で対応できるよう、周産期母子医療体制の充実強化の対策を講じることの要望を行っております。

また、当該計画の策定協議会には、久慈地区の現状を十分に承知しておられる久慈病院の産婦人科長と久慈保健所長のお二方がメンバーとして参加されており、久慈地区の現状も踏まえた意見等を強くご提言いただけるものと考えております。

次に、産科医師確保に向けた取り組み状況についてであります。これまで、本市出身の産科医との面談や、管内首長が協働しての県や岩手医科大学に対する要望活動などを実施してきたところであり、今後は、本市出身の医大生との面談も行い、将来の産科医への意向などを確認する予定であります。

また、久慈保健所では、中学生を対象に、久慈病院の臨床研修医の体験談などを語り聞かせ、将来医師を志す人材を発掘するという事業を行っており、今年度、市内では5つの中学校で実施されましたが、長期的視点に立った取り組みであり、市としても引き続き協力してまいります。

次に、食肉産業についてお答えをいたします。

まず、豚の食肉処理場の改修計画についてであります。一般社団法人久慈広域食肉処理場は、昭和61年の操業開始以来、30年が経過しており、施設の老朽化が進んでいることから、衛生環境の改善等を図るため、平成29年度から3カ年で保守改修工事の実施を計画していると、同法人から伺っているところであります。

また、鶏の処理場の増設及び雇用につきましては、現在、株式会社十文字チキンカンパニー久慈工場の大規模な増設工事が行われており、本年10月の新工場稼働に向けて、順調に進捗していると同社から伺っているところであります。

本格稼働後は、1日当たりの処理羽数が現状の6万

5,000羽から9万羽となり、国内最大規模の処理工場となる見通しであります。あわせて、増設に伴い、86名の新規雇用が計画されておりましたが、現時点で計画人数を上回る91名の雇用を確保したと同社から伺っているところであります。

次に、食肉産業の副産物の活用によるワニ養殖のご提言についてであります。これまでワニを産業動物として捉えた経過はなく、検討に視野に入っていなかったところでもあります。東南アジアでは、一大産業化されている事例もあるとのことではありますが、国内的には数例しかなく、現時点で本市の畜産業や観光等の分野での産業化の考えは持ち合わせていないところでありますのでご了承願います。

次に、新たな朝市などの企画についてお答えいたします。

本市では、約360年の歴史を持つとされている中心市街地での市日や、二子朝市、くるま市、平庭市などが民間主体で定期開催されているところであります。

また、市日と連動して開催する、北三陸くじ冬の市や、久慈商工会議所が主催するまちなかありがとう市等が折々に開催されており、市民の方々をはじめ、多くの観光客の皆様が親しまれ、久慈の風物詩として定着しているものと認識しております。

市といたしましては、今後も民間との連携を図り、さまざまな角度から検証を加えながら、さらなる魅力の向上に努めてまいります。

最後に、八戸久慈自動車道についてお答えをいたします。

宇津目坂付近の地すべりの状況と供用開始時期への影響についてであります。三陸沿岸道路の事業者であります三陸国道事務所から、現在、地質調査に基づき、地すべりの解析作業中であり、今後、有識者を含めた対策検討委員会で対策方針を決定する予定であり、対策方針が明確になった後、速やかに対策工事に着手するとともに、供用時期についても再検討を進める予定であると伺っております。

市といたしましては、久慈北道路の開通予定におくれが生じないよう、国・県に対して、引き続き強く要望してまいります。

以上で、市民共同代表、畑中勇吉議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

[教育長加藤春男君登壇]

○教育長（加藤春男君） 市民共同代表、畑中勇吉議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、学区の再編成についてお答えをいたします。

昨日の政和会代表、佐々木議員にお答えいたしましたとおり、保護者や地域住民からは、小規模校のメリット、デメリットに関する意見や、学校が地域コミュニティに果たす役割などについて、多くの意見要望をいただいているところであります。

教育委員会といたしましては、いただいた意見や課題等を精査するとともに、保護者、地域住民との意見交換を重ねた上で、子供たちにとって何が一番大切かを第一に考え、平成29年度内の小中学校の適正配置に係る計画の策定に向けて取り組んでまいります。

次に、山形小学校の改築についてお答えをいたします。

まず、改築に係る検討の進捗状況についてであります。策定を進めている小中学校の適正配置の方針を踏まえながら、優先度、財政状況等を勘案し、検討してまいります。

次に、教育行政全体についてであります。市総合計画に基づき、限られた財源、人的体制の中、各施策を積極的に推進しているところであり、学校をはじめ施設の整備につきましては、財源の確保に努めながら取り組んでまいります。

以上で、市民共同代表、畑中勇吉議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 再質問、関連質問を許します。12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） 再質問に当たり、議場内スクリーンを使用させていただきますよう議長のお取り計らいをお願いいたします。

○議長（中平浩志君） スクリーン等準備のため少々お待ち下さい。12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） それでは、再質問させていただきますが、質問項目の2番、台風10号災害の関係でお尋ねをさせていただきたいと思っております。

今回の久慈川の橋脚、大変被害を誘発したといえますか、影響が大きかったのが、上の橋の橋脚と、それからJR鉄橋だったというふうに思っています。それで、上の橋の橋脚の抜本的な改良をする場合に、総工事費がどれぐらいかかって、市の手出し負担がどれぐ

らいになるのか。それからJR鉄橋、これはJRの鉄橋なわけですが、これ、もし抜本的な改良をする場合、どれぐらいかかるのか。またこの影響で甚大な市街地が影響を受けたわけでありましたが、全くJRの負担での工事費になるか。また国なり上のほうからの支援、あるいは市等の支援もなされるというふうなことがあるのかどうか、その辺をお尋ねしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 台風10号の災害にかかわって、上の橋とJR八戸線の鉄橋の架け替えにかかわるご質問でございます。

まず、上の橋の橋梁の改良を行うということでの経費ということでございますけれども、イコール橋梁の改修、架け替えということになります。現在、12径間ということで、橋脚が11基ございます。これを架け替える場合、きのうのご質問にもありましたが、河川管理者のほうの許可を、新しい基準でいただくということになると、3径間ぐらいですか、橋脚が2つぐらいの橋が想定されます。

工事費ですけども、詳細な部分はちょっと検討をまだしていないところでありますけれども、ちなみに川崎大橋、川崎町から田屋のほうに抜ける道路橋があるわけですが、その工事費が大体11億円ぐらいかかっております。恐らく上の橋についても、橋梁部分でもそのぐらいの経費はかかるものと思っております。したがって、JRも工事費、橋の部分については、同等ぐらいの工事費がかかるだろうと想定されます。

それで、ただいまの金額は橋梁部分のみでございます。例えば、上の橋を例にとりまして、12径間の橋を3径間にするという事は、桁、それに橋脚、橋台に係る桁の高さがどうしても構造上、高く大きくなります。結局、その路面が上がって、前後の取り付けの今度は問題が出てきます。

例えば、上の橋の場合ですと、右岸側ですけども、荒町交差点との距離、その上がった分の高さを、あの距離で処理できるかどうかという、これは詳細な設計してみないとわからないことではございますけれども、かなり大変だろうと想定されます。

そうしますと、例えば281号線を上げるとか、あるいは距離を稼ぐために281号をシフトするとかという、そういったことが必要になってくるのではないかなど。その辺にも当然、必要な経費があるわけで、その分は

ちょっと今加算しない部分になってございます。

あとまたJRも同じようなことが言えまして、さらにJRの場合は、鉄道の勾配というのが非常に道路の勾配とは違って、非常に緩やかな、道路の場合はアスファルトとタイヤとの摩擦で走るわけですが、鉄道の場合は、鉄と鉄の摩擦ということで、極端な勾配をつけられないという。あとは車両をつないで連結して走行しているわけですので、そういったものに対しても、やっぱり勾配がかなり緩くないといけないということで、JRの久慈川の橋を上げるということは、イコール当然、駅構内にも影響します。さらには三鉄の長内川のほうの橋までも影響するだろうと想定されます。

あとは、北の側のほうを見ても、例えば新中の橋の跨線橋がございませうけれども、あれにも影響するだろうということで、橋の部分だけでなく、それ以上の経費が伴ってくるのではないかなということは想定されます。

そのJRのほうの橋を架け替える場合の国の支援ということでございますが、すいません、その辺まではちょっと把握し切れませんので、ご了承いただきたいと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） その上の橋を、今回、災害等を原因として、架け替えとかという場合は、11億プラスアルファということなんです、国等からの支援というのはどうなるのでしょうか。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 上の橋のほうの市道のほうの財源でございますけれども、基本的には、社会資本整備総合交付金という事業を導入することに、今の時点では想定されますが、国の補助が10分の6です。残りについては市の負担という形になります。

以上です。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） なかなかにして橋脚を抜本的に改良するというのは至難の業だなど、すぐというのは、ましてや、JRのほうなんかは、これはまた大変なことだというふうに思うんですが。そういったしますと、流木が当面上の橋、JRに滞留しないような対策が有効なかなというふうに思います。

スクリーンのほうをちょっとお願いしたいと思いま

す。

そこで、上流に捕捉工を整備すればいいと思うんですが、これは捕捉工にはいろいろ種類がありまして、R、N、HとかIとかいろいろあるんですが、この捕捉工はR型の捕捉の型式の捕捉工なようでありませう。

例えば、山口トンネルの付近に、頭首工という農業用水の水を引くコンクリートの構造物がありますけれども、このR型という捕捉工は、既存のコンクリートの構造物に鉄鋼を埋めて、そしてつくる、その部分が大変特徴的な捕捉工の型だというふうに言われております。

例えば、山口トンネルのあの横断的なコンクリートの構造物にこれを配すれば、予算も少なくできるというふうな対策ができるというふうな気がしますが、そういうふうな部分について、設置について、調査なり実施するよう要望すべきと思いますが、見解をいただきたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 流木捕捉工ということで、今回の災害に流木がかなり影響したということです。それを排除するという方法の一つとしての手法なわけでございますけれども、今のご提言の中でも、一つは久慈川でございます。県管理の河川でございますので、管理者との協議が必要になってくると思っております。あるいは、今ご提案のありました頭首工を、農業施設でございますが、こちらに設置するにしても、その施設の管理者との協議が必要になってくると思っております。

それで、例えばどういう協議を市が必要になってくるかということでございますが、既存の施設の、この施設は既設のものにも取りつけられる特徴があるということで、コンクリートに削孔して鉄のものをそこに差し込んで、砂か何かで固定して、流木が引っかかったら一緒に取り外して掃除もできるし、例えば、鉄が変形しても、また交換もできるという、そういった特徴があるというふうに、私にもわかではございますが、ちょっと勉強してみましたけれども。

そういった構造物ではございますけれども、例えば、普段は頭首工は、天板の上を水が越流してなっていくわけですが、こういった構造物、こういったものをつけることによって、設置した思いどおりに、例えば流木がそこで食い止められたということになりますと、

今度はそれが外力となって、モーメントってあれですが、その構造物に当初想定しなかった加重がかかるということになります。

さらには、例えば1メートル程度であれば、どれぐらい、今回想定するのは、かなりの水深に久慈川はなったということでございます。そうすると、その水面を流木は流れてますので、1メートルだけではなくて、3メートルとか5メートルの鉄の構造物を設置することになれば、それがまた既存のコンクリートの部分に作用するというので、なかなかその辺の協議が必要になってくるということで、なかなか大変なかなと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） いろいろな捕捉工があって、これはN型といいますか、捕捉工なんですけど、大分縦軸だけじゃなくて横軸の補強をした捕捉工なようでありますけれども、本流だけでなく支流、幾らも支流があるわけですが、久慈川には、そうしたところ等に地形や川の形状を見て、総合的に対策をしなければならぬと思います。

戸呂町のほうから来るこの支流、あるいは繫、遠別川、いろいろあるわけですが、こうしたN型の支流対策もしっかり行って、本流に来る前に対策をすればいいと思いますが、その点もお考えをいただきたいと思っておりますし、それからもう一つは、大川目から久慈高校の付近まで、小本川は延長200メートルで幅が20メートルから70メートルのコンクリートの構造物で流木を誘導して滞留させると、こういうものなようでありませけれども、私は大川目から久慈高校の付近までは、そういう箇所が、規模は200メートルというのは難しいかもしれませんが、小本川のような捕捉工というのは、十分設置が可能な場所があるというふうに思います。

県のほうでは結果を見て、結果がよければやると言ってるんですが、もう全国的には新潟とか、この捕捉工は効果があつて実証済みだというふうには思っています。ですから、小本川の結果を待たないで、今から久慈川の下流のその橋脚の対策もなかなか大変だと思いますから、小本川型式の捕捉工等を視野に入れながら、しっかり働きかけをしていただきたい、この2点、お尋ねをしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） まず、スクリーンには、高性能捕捉工でございますが、拝見する限り、砂防とか治山絡みの施設ではないのかなというふうに想定されますので、質問にありました支線に活用するということは可能性はあると思いますので、その辺は要望していきたいと思っております。

あと岩泉で設置される河川のスペースを利用したその捕捉工ですが、河川のさらにカーブのところに結構な用地を確保して、その水の遠心力といいいますか、その流れを利用した流木を集めるという方法でございますが、私も県のほうに確認しましたら、試験的にというお話でしたけども、久慈市でもそれがかなりの原因になったわけでございますので、その辺もちょっと県のほうと協議をしてみたいと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） 質問項目の5の2の災害時の給油所確保の対策についてなんですけど、今回、8,000カ所の発電機が整備されると、こういうことなんですけど、これ久慈市で申請なり、この8,000の中に手を挙げている給油所がどれぐらいあるのか、おわかりでしたらお知らせいただきたいというふうに思います。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） 資源エネルギー庁のほうで募集をして、全国で8,000カ所の給油所を選定してやるという事業でございますが、これにつきましては、市町村から、いわゆる申請をするのではなくて、石商組合さん等から直接申請をするということで、確認してみたんですが、その申請数等については公表をしていないということでございまして、把握はできていないところでございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） 質問項目の4番、災害時のドローン活用に関する関係ですが、災害が何回も起きているんですが、災害時等の当市におけるドローン、岩手県には支部等もあるようですが、こういうところをお願いをして、災害対策で活動いただいた実績、あるいは東日本ドローン協会岩手支部に所属する当市の会員、あるいはドローンを国土交通省の認可をいただいて活用している市内の事業者等、もしおわかりでしたら教え

ていただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） ドローンに対するお尋ねでございますが、まず、台風10号の際にドローンを活用した実績があるかということでございますが、市で直接発注をしたりお願いをしたりした実績というものは、特には正式なものはありません。

ただ、その中で、東北地方整備局のほうで、テックフォースの皆さんが来て、お手伝いをいただいたわけですが、その中で上空からの映像等を撮って、それらを活用したということはございます。

それから、民間の方が協力をしたいということでの申し出がありまして、その際には、災害に直接ということではないんですが、市街地の上空からの映像等、そういったものを撮っていただいた経緯はございます。

それから東日本ドローン協会という協会があるようございますが、その中で、当市の会員数ということでございますが、現時点で確認はちょっととれない状況でございます。

それから、国土交通省から認可をいただいて、そして活用している市内事業者数ということなんですが、そのところはちょっと確認はとれない状況でございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） まだ市内ではあまり普及していないような形なんですが、このドローン。大船渡市では、東日本ドローン協会岩手支部と協定を結んで、災害時等の協力をいただく協定を結んだというふうなことがあります。県内でも、1市なんじゃないかなというふうに思いますが、技師の養成のほかに、やっぱり活用の仕方には、協定を結んで、そして災害時に機能を発揮いただくというふうな考え方も思うんですが、その辺の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） 確かに、新聞紙上でございますが、大船渡市さんが東日本ドローン協会ということと協定を結んだということでございます。岩手支部というものがあるようございますが、東日本ドローン協会そのものが、ホームページ上からの情報によりますと、群馬県を拠点としたドローンに関する事業を行う団体ということで設立されたようございま

して、その中で、支部というのは岩手県支部があるようございますが、そのほかの支部はちょっと今のところ、そのホームページ上では確認がとれないところでございます。

その中で大船渡市さんが、岩手県支部はその本拠地が大船渡市さんにあるということでございます。で、協定を結んで、いろいろ災害時の活用等を推進するというところでございます。

久慈市においても、ドローンにつきましては、市長からご答弁申し上げましたとおり、その活用策については、これから検討すると、導入も含めて検討してまいりたいと考えておりますけれども、それを活用策、操縦方法等もある程度、講習等も必要になってくるかと思っておりますし、それからこういった活用をしていくかという部分もいろいろ検討をしていく必要があると思っておりますので、その辺のところは、大船渡市さん等の協定等も参考にしながら、そのほかの方法等もあると思っておりますので、そこら辺を研究しながら検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） 質問が前後して申しわけございませんが、質問項目の3番、東日本大震災の際に整備した漁船等の取り扱いの関係でお尋ねをしたいと思います。

先ほどの市長の答弁いただきましたが、倉庫等の部分については、無償で払い下げをするというふうなことであります。ただ、それ以降、その使用者なり団体等については税金が発生するというふうな答弁だったと思いますが、その払い下げ、無償で払い下げて税金が発生するというふうな、この倉庫なり、それはどれぐらいなのか、また漁船も払い下げをされるというふうなことなんですが、214隻ですか、その資産価値の評価というのはどうなるのか、その辺、お願いしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 東日本大震災によって整備された倉庫等につきましては、先ほど市長からご答弁申し上げたような棟数になっておるわけでございますが、いずれ、今回5年経過するというふうなことで払い下げを予定しているところでございます。倉庫等につきましては、これにつきましては、中小機構等の支援を受けて整備したものということで、一定期



間は市が所有して、利用者の方に便宜を払うというふうなことで整備いただいたものでございまして、5年の経過によって払い下げしていいと、利用者の用に供していいということになっておりまして、今その手続を進めているところでございます。

これにつきましては、当然に所有者が税負担していただくということが原則になるわけでございます。先ほどご答弁申し上げました、合計で30棟、この部分が倉庫等につきましては対象となるものでございます。

それから漁船につきましては、共同利用漁船復旧支援事業ということで214隻、これについては、現在、漁協のほうを整備したものということで、これについては貸与中ということでございまして、今後払い下げ予定があるかどうかについては、ちょっと確認をしていないところでございますが、いずれこれにつきましても税の対象にはなっているものでございます。ただ、固定資産ではございませんので、市税等の部分ではなくて、取得税とかそういった部分での部分でございまして、毎年生じている税というものはないというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（中平浩志君）** 12番畑中勇吉君。

**○12番（畑中勇吉君）** 7番の周産期医療について、お尋ねをしたいと思っております。

現在策定中の周産期医療に、ハイリスク分娩なりいろいろ要望を出しております。重点要望もありますし、やっているわけでありましたが、今、学会のほうでいろいろ論議しているというのは、久慈のように、こういう地理的な条件のところ、県境を超えた周産期医療の協力体制がどのようにあればいいのかなというふうなこと等がよく出ているようであります。

この岩手県の周産期医療体制整備計画の中で、この県境を超えた周産期医療の協力体制が、どのように議論されたり、どのようになっているのか。また当然、県境を超えた周産期医療を確立するためには、岩手県が一方的に片思いでと言えは悪いのですが、それでも物が進まないと思うんですが、例えば、青森県の周産期医療の組織なり、そういうところと現在でも年に1回とか窓口を持ってやりとりをしたり、連絡をとり合った経過があるのかどうか、その辺について。

特に、八久自動車道が通れば、短時間で八戸の産婦人科に行けるという事情があるわけであります。そう

いうことですが。

それともう一つは、久慈病院から八戸病院に転院するといいますが、そういうふうな今の実績がどれぐらいあるのか、その辺をお尋ねしたいと思います。

**○議長（中平浩志君）** 和野生活福祉部長。

**○生活福祉部長（和野一彦君）** 今の県計画を議論しているわけでございますが、その中で、県境を超えた周産期医療について、議論がなされているかどうかというご質問でございますが、会議録が公表になっておりませんので、詳細については存じ上げてはおりませんけれども、ただ実際問題として、岩手県北地域から八戸の医療機関で出産をされる方も数多くいらっしゃるという実態がございます。そういうことも踏まえながら、今そういうことも話題としながら、あるいは議題としながらの議論が進んでいるものとは認識しております。

それから、青森県内の周産期医療機関との協議はしているのかというご質問でございますが、これは岩手県だけでなく、岩手医大も関係しております。岩手医大の関係する八戸の医療機関は日赤がございまして、岩手医大を通じながら、日赤にもお話が行っているものと、そういうふうには認識しております。

それから、久慈病院から八戸への転院の状況ということでございますが、今年度、半年間で、久慈病院、あるいは二戸病院以外で出産された方が23人ほどいらっしゃると思います。そのうち、八戸も半分ぐらいはいらっしゃるんだらうなどは把握しておりますので、年間ですと二十数件ぐらいは久慈病院から八戸に転院はしているのかなと推測はしております。

以上です。

**○議長（中平浩志君）** 12番畑中勇吉君。

**○12番（畑中勇吉君）** 出産した方々の話を聞いたんですが、ハイリスク分娩なり、何と言いますか、つわりがひどい人が、出産までに苦勞している方々は、何ぼでも近いといいますが、通院が近い病院がありがたいという話をしております。

二戸の病院でも、そういう大変なとき、例えば4人部屋なんかでは無料で入院もできるということも聞いておりますけれども、大体が家から通ったりしていると、冬でありますと1時間40分かかるといような話を聞いています。そうすれば、すごい苦痛だということ、少数の妊婦さんなわけですけども、そう

いうふうなこと等もありますので、そういう妊婦さんの出産をできるだけ安心安全にできるような医療体制を確立するように、多様な方面から検討をいただきたい。

先ほど言いましたように、県境を超えた連携なり、入院等についても、4人部屋では無料ですが、1人部屋になれば、また料金がかかるというふうな話もあって通院等もしている方もあるようであります。多様な事情を勘案しながら取り組みをしていただきますようお願いしたいと思います。答弁は要りません。ありがとうございます。

それから、順序は変わりますけれども、今スクリーンにありますけど、台風10号のこの環境保全と地すべり対策の関係ですが、先ほどいろいろ工事の関係等で検討しながらやっていきたいというふうなことなんです、これは小子内漁港のすぐ上のJR八戸線のそばののり面であります。見るとおり、急斜面のすぐそばに、うちの屋根が見えますけれども、もうぎりぎりまで宅地でありまして、斜面も急ですが、笹竹を植えて、私を知る限りでは、豪雨や地震や、津波もあったんですが、一切そういうの関係なく、しっかりと根を張って地盤を守っているというふうなことであります。

それで、これはちょっと斜面がきつくてあれだったんですが、そういうことで私の地元の田子の木漁港の裏側っていいですか、そこに小子内から根をもらってきて、国立公園でありますから環境省の許可をいただいて植栽したわけですが、大変いい具合に根を張って、よく点が面になってきたと。これからよく伸びるのかなというふうに思って喜んでおるんですが、ぜひ、今回の地すべり、あるいは森林保安林、水源涵養の保安林なんかの地すべり、そういう地帯に笹竹を植栽できればいいなというふうなことを感じますが、例えば、道路ののり面はもちろんですけども、水源涵養なり保安林等に別な種目の笹竹等の植栽が可能かどうか、その点についてお伺いしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） いろいろお話があつて、最終的には保安林のほうに笹竹の植栽が可能かということでございますけれども、その目的が地山を抑えるということの趣旨のようでございますけれども、竹の場合は、その根張りがその浸食を防止するというのを、これまでも経験上わかっていることなわけでございます。

すけれども、逆に言うと、その一方では、この辺ではまだあれですけど、孟宗竹が山林にふえ過ぎて、樹木との共生といいますか、そういうのが課題になっている、問題になっている地域というのも聞いたことがございますけれども、その辺が一つのチェックのポイントになるのかなと思いますが、ちょっと研究させていただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 12番畑中勇吉君。

○12番（畑中勇吉君） 9番目の新たな朝市の関係で質問させていただきますが、館花岸壁の朝市、八戸です。350店舗、店が出て、すごい賑わいだというふうなことを聞いております。

久慈、八戸のこの方々が好んで、喜んで行って楽しんでるようですが、もうこの12年、13年、朝市をやっているんですが、八戸が朝市のおもしろみを定着させてくれたと、こういうふうなことも言えるだろうというふうに思います。

ただ、行きたくても、やっぱり駐車場、その会場が行けるような会場でないと多くの人が集まらないという事情もあると思いますから、既存の、八戸の朝市を、この館鼻でやる場合もいろいろ、今までの朝市との兼ね合いとか、そういうふうなことが議論されたやに聞いております。

しかし、踏み切ってやった結果、非常にその賑わいと、私が聞くところによりますと、津軽から岩手県、そしてもう夜中の2時から人が動くというふうに聞いております。楽しんでいるというふうなことでありますから、ぜひ、既存の私は朝市をなくするという意味で言っているんじゃないんです。新しい朝市をやってみて、そのことが広域道の駅をつくるのにどういう企画をすればいいのかなとか、あるいはまた、むしろ今の既存の商店街の方々、その朝市に行って、そしてリピーターとなってもらって自分の店にお客を呼び込むというふうな可能性も期待感もあるというふうなこともあると思います。ぜひ検討をいただきたいなというふうに思います。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 今、広域道の駅でもいろいろなこの朝市の様子も取り入れた検討ということでございます。

いろいろな角度から、広域道の駅につきましても検討したいと思っておりますが、ただ、朝市につきましても、

そのような機能は本当に必要だと思いますけども、また場所の、エリアの面積の問題、そういう部分もございますんで、そこら辺はいろいろと慎重に検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） 市民共同、畑中勇吉議員の質問に関連をして、質問をさせていただきたいと思えます。

その前に、昨年来、議会で学童保育、あるいは子育て支援について、いろいろお願いしてきた経緯がございますけれども、いよいよ大川目小学校の学童保育、それが4月1日の開所に向けて、今順調に進んでいるということに対しまして、感謝を申し上げたいと思えます。

また、長内小も今急ピッチで進んでいるようだけれども、そういったことについて、市長のご努力に感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは、私から2点ほど関連質問させていただきたいと思えます。

まず4番目の災害時のドローンについてなんですけれども、今いろいろお答えをいただきましたけれども、実は今、大船渡市の例がございましたけれども、他市では、さまざまな、もう実用的なドローンの使われ方もしておりますので、多少、久慈管内が遅れ気味なのかなというふうな感じもいたしておりますので、これから検討するというふうなお話ではございましたけれども、もう少し踏み込んだ形で計画をされたほうがいいと思えますけれども、そこら辺についてのご認識はおありでしょうか、お願いいたします。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） ドローンの活用について、これから検討していくということでご答弁を申し上げますけれども、取り組みが他地区に比べると進んでいないんじゃないかというお話でございます。

そういった部分、いろいろ各地域での状況等があるかと思えますし、そこのところはいろいろ他地区を参考にやっていきたいと思っておりますし、導入につきましても、早い時期に導入したいということで、それをもって消防本部、それから消防団、そのほかに、ドローンというのは災害だけではなくて、いろいろな場面で活用できるというふうと考えておりますので、

そういった分野においても、いろんな広く活用を検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） それで、そのドローンというのは、UAVとか、無人飛行機というふうな言い方をするんですけども、実際、この間の台風10号でも、任意ではございますけれども使って、その被災状況を空撮をしたという民間の企業さんもあったようです。ということは、やはり先乗りの人間が行けないようなところも行けますし、あるいは社会福祉関係で、現地を、例えば岩泉の行けない限界集落といえますか、道路が寸断されて行けないようなところにも、あらかじめもう座標入力、緯度経度を入力しますと行って戻ってくるという、そういった設定もできるようでございますので、ぜひとも研究を進めていただきたいと思っております。

当然、下は1キロ平方メートル当たり4,000人の人口密度のあるところでは、普通、一般的には飛ばせなくて、そういったところで飛ばす場合は、飛行計画というのを立ててやらなければいけないので、それは少し面倒くさいんですけども、いちいち国交省の許可が要ると、申請しなければならないということもございまして、そういったところの勉強も含めて、やられたほうがいいのかというふうに、こう思っております。回答は要りません。よろしく願いいたします。

それから、教育長にお伺いをいたします。11番なんですけれども、学校が地域コミュニティに果たす役割というふうなことで、昨年度からいろいろ学区の再編とか学校の再編について、研究とかいろいろされてきたと思うんですけども、その適正規模配置に関して、具体的に地区住民からどのような声が上がったのか、教えてください。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） 適正規模ということでございます。昨年の地域懇談会の中では、さまざまそういう小規模校、あるいは普通の学校のメリット・デメリットということで、さまざま意見がございました。私もそれは受けとめておりますし、その出された意見については、どれも正解だろうと、いろんな。ですから、なかなか今後の検討につきまして、慎重にといえますか、していかなければいけないなという思いをいたしておりますし、教育長からも申し上げまし

たが、やはり子供を第一に考えてということになるろうかと思えます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） ありがとうございます。それで、29年度に新たな方針を構築するというふうなご回答をいただきましたけれども、具体的なスケジュールというのもお決まりでしょうか。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） 昨年、地域に入って、さまざまな意見等を頂戴いたしました。29年度につきまして、早々に検討する組織の中で検討し、素案的なものをつくりまして、また地域のほうに入って説明を重ねていくという手順になるろうかと思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） ありがとうございます。久慈市内は、学区とすれば、多分8学区あるかと思うんですけども、その中で例えば、一応学区があって、それから他学区に行きたい場合のそれぞれの決まりというのが、要するに他学区通学認定基準みたいなものがある市とない市があるわけですけども、久慈市ではそういったものはつくっていらっしゃいますか。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） いわゆる学区外就学の基準と申しますか、その取り扱いだと思いましたが、内部の要綱と申しますか、それはあります。それに基づいて、申請があった場合は許可する、しないを判断しているということでございます。学校長の意見等も踏まえた上でございますが、そういう判断をしているということでございます。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） それっていうのは、例えば教育委員会のホームページか何かで見えることはできますか。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） あくまで内部の取扱要綱というものでございますので、ホームページに公開等はしてございません。

以上です。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） なぜこう聞いていますかとい

いますと、例えば、久慈、小学校は小学校の子供さんのその規定がありまして、中学校の子供さんには中学校の子供さんのそういった決まりがございまして、例えば小学生であれば、おじいさんおばあさんがそちらにいて、お父さんお母さんは共働きで、だから日中見れないので、そちらの学校を選んでもいいよという具体的なのが示されていたり、あるいは中学生であれば、今久慈市内でもいろいろクラブ活動によって、いろいろな学校を選んでいるような経緯もございますけれども、しかしそれが、そういった縛りが解けた時点で、そういった他学区の何と言うかな、その認定基準というのが解かれるというふうなことも具体的に決まりがあつて、そういった場合に、やはりどこまでその子供を保障してやるのか、それから認定期間がどのぐらいなのかということについても、やはりきちっとやっておかないと、それぞれの学校をこれから整備していくに当たり、今現在もいろんな人たちが行ったり来たり見られたり、例えば大川目に学童をつくったということによって、久慈小学区からも来たりというふうなことも実際は始まっております。

ですから、そういったものについて、教育委員会だけではなくて一般の人もある程度確認できるようにしていただきたいんですけども、その辺についてのお考えはおありですか。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） 小倉議員指摘の点もあろうかと思いますが、内部の要綱ということにしている点と申しますか、恐らく私思うに、逆に公開した場合も逆に促進してしまうという面もあるのかなということもございまして、必要な保護者の方が申請していただいて、それぞれ在学する関係する校長先生の意見を聞いた上で教育委員会内部で判断しているというふうなことだと思っておりますので、ご了承いただきたいと思えます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） もう1点、地域コミュニティに関してなんですけども、いろいろ地域コミュニティというのが一人歩きしているような感じもあるわけですけども、全国には、例えばコミュニティ校、コミュニティスクールというのが2015年ぐらいから文科省のほうの答申の中であって、例えば、近くでは普代小

学校・中学校がコミュニティ校に認定されて取り組んでいるということなんですけれども、久慈市ではないということについては、何かそういったできないリスクとか何かデメリットが多いからできないということなんでしょうか。お願いします。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） コミュニティスクールということでございましたが、いわゆるコミュニティスクールというのは、学校運営に地域の方々が参加する形の学校というものでございます。いろんな意見を聞きながら学校経営を校長が行っていくと。いろいろ課題というか問題になっているところでは、例えば人事についても要望できるとか、そういうふうなことまでやっていくようなその仕組みがコミュニティスクールということでございまして、岩手県では、岩手型コミュニティスクールをということで、いわゆる振興運動を地域でやっている、それと学校との連携を岩手型コミュニティスクールという形で進めていこうということにしております。

いわゆる全国で行われている、そんな多くないんですけども、今どのぐらいでしょうか、まだ数パーセントだと思うんです、全国の学校の。ちょっと正確な数字は持ち合わせてないんですが、につきましては、岩手県内としては、今後の検討課題だろうというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） これについても、今後検討されていくであろう部門の中で、そういった領域の中で、コミュニティ校、コミュニティスクール、要するにきのうも話題になっておりましたけれども、小中一貫校とあわせて、コミュニティ校というふうなことも部分的には入ってくるのかなというふうなこともあって質問しているわけです。

そういったことで2015年ぐらいからでしたか、文科省のほうでも小中一貫校にすることによって、きのうも教育長さんのほうから回答がございましたけれども、ハード整備というのも当然伴ってきますし、先生方のその配置等についても、免許の関係、そういったことでも、やっぱり多少問題になってくるということについても、国のほうでは、そういったことについても緩和措置とかハード整備するに当たって、補助も支援も

していくよというふうなこともあったようですけども、そういったことも含んだ形での検討をしていくということになるんでしょうか。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 小中一貫校なんですけども、岩手県で、いわゆる小中一貫校が一番進んだといえますか、これは大槌町の大槌学園なんでございますが、これはいわゆる完全に小中が一つの学校になって、名称も義務教育学校ということになります。

そうなりますと、メリットとしては、いわゆる中一ギャップの解消、中学校1年生段階で不登校になったり、いろいろ学業についていけなかったりするような子供たちを救うことができるというふうなメリットがございまして。

さらに、学年を、義務教育学校の場合は、1年生から9年生まであるんですね。だから、中学校1年、2年ではなくて、もう8年生、9年生。それを例えば4年生ぐらいのところまで低学年としてのまとまりとして授業をすると。あるいは8年生ぐらいのところを中学年ぐらいまでのまとまりとして授業をすると。小6と中1は、もう継続していくというような形ですね。最後の9年生は義務教育のまとめの段階にするとか、そういうふうな独自の教育課程を踏むことができるという、そういうふうなメリットがございまして。

ただ、いわゆるこれは小学校6年生で終わって中学校に行くという、またこの区切も大事ではないかというふうな意見もございまして。一つの学校を卒業したんだというですね。それが人生の区切りって、そういうことがいっぱいありますので、中3での区切り、高3での区切りとか、そういう意味ではいかがだろうかというようなこともございまして。

あるいは、いわゆる義務教育学校ではなくて、連携の学校であっては、盛岡の土淵の小中学校なんかはそうなんですけども、あそこは盛岡市内では、かなり小さな学校だったんですね。その小さな学校を、小学校と中学校一緒にしてつくりまして、その校舎を使用するメリットが非常にお互いに大きくなる。例えば、体育館は一つで済むとか、グラウンドも一つで済む、それから音楽室とか調理室も両方で使えるとか、そういうふうなメリットもございまして。そういう施設の面から考えていくのも一つの形であると、これは義務教育学校ではなくて。というふうなこともありますので、久慈

市内でもこれは研究する必要があると思っております。

ただ、今すぐというのは、なかなか難しいと思いますが、将来的な研究課題だというふうには思っております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 3番小倉利之君。

○3番（小倉利之君） ありがとうございます。きょうは地域コミュニティということについてを中心に、いろいろ意見交換をさせていただきましたけれども、おかげさまで大川目公民館が、この間3月1日に文化大臣賞をいただきまして、いろいろこれも皆様方の指導の賜物というふうに思っております。

学校再編についても、そういったことも、やっぱり地域の学校がなくなると、今でも学校を中心に地域が成り立っているようなところもございますので、ぜひともその辺も考慮に入れていただきまして、学校再編、学区再編について考えていただきたいとお願いをいたしまして、私の関連質問を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） それでは、畑中議員の一般質問に関連をいたしまして、実は3点用意してんですが、先ほどご答弁をいただきまして、あるところ1カ所、気になる答弁がありまして、1番と2番の5番、それから12番と再質問する予定だったんですが、予定を変更して12番だけに絞らせていただきます。

いわゆる山形小学校の改築問題についてということなんですが、随分先ほどの答弁、簡潔過ぎるというんですか、びっくりしましたね。何か挑発されているような気がしまして、不足した部分は幾らでも質問していこうというような、そういうことを言われたような気がいたしまして、遠慮なく質問をさせていただきます。

平成23年、当時、亀田教育長は、この山形小学校の改築問題について、このように答弁をしております。

「改築の必要性は認識しており、今後、改築に向け、関係部局と協議をしていきます」、それから平成27年、これは二子議員が質問をした、同じ山形小学校の改築についてなんです。このときにも、「改築の必要性は認識している」と、「市立小中学校の適正配置の方針を定め、優先度、財政状況等を勘案しながら検討していく」と。この27年と、28年には下川原議員が質問を

いたしております。27年と28年の答弁は全く同じなんです。1年たっても何も変わらない、同じ答弁。そして今回は、「改築の必要性を認識している」という、そういう文言が削除された答弁だった。これは一体どういうわけですか。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） 答弁の中で文言が、「認識している」という言葉がなくなったというのはどういうことかということではございましたけど、教育委員会としては、その改築の必要性についての認識については変わりございません。

以上です。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） いわゆる行政には継続性というのが大事である。平成23年に、関係当局、部局と改築に向けて協議をしていくというふうに、当時の教育長が答弁してるんですね。このときの記録が残っているか、引き継ぎがあるかどうかわかりませんが、現在の教育長になってから、関係当局と協議をしたような経緯があるか、あるとすれば、その中身は一体どういうものか、具体的にお答えください。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） いわゆる山形小学校に限らずといいますか、教育施設の整備等については、必要性は認めておりますし、取り組みたいという思いはございますが、議員もご承知のように、市全体の事業の優先度、あと財政状況等がございますので、現時点ではなかなか進捗していないと。当然に、市長部局のほうとも、財政当局が主になりますけれども、いろいろと協議はしているところでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 協議をしたその中身を教えてくださいって言うてるんですよ。どういう中身になってるんですか。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） いわゆる財政的に、何と言いますか、着手できるのかどうかという時点での話のところでは止まっているといえますか、ということでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 津波もありましたし台風もありました。それは財政的にやりくりが厳しいということは承知しております。しかし、すぐつくれとか、そんなことを言っているんじゃないんですよ。こういうことを何年も何年も積み重ねて、いろいろ質問しながら積み重ねてやってきているわけですよ。ですから、その積み重ね、行政は継続が必要だと。そういうことで、当初23年に、教育長からそういう答弁があった。それを信頼してやってきておるわけですが、何年たっても同じ答弁だ、これだんだん信頼できなくなってきましたよね。

この山形小学校の改築問題、いわゆる新築問題というのは、合併前からあったんですよ。それで今から二十数年前に、実は体育館、まだ修理してませんね、屋根。10年たっても20年たっても修理しない。それは体育館の話ですから。体育館の屋根がひどいというんで、体育館、あれはスペースが、山形の小学校の中で一番大きいといっても大して大きくはないですが、一番大きい学校の体育館が、一番体育館のスペースが、面積が狭いんだと、そういうこともあって、式典、卒業式とか入学式、風が吹くと屋根がガタガタガタと、マイクの音すら聞こえないという、そういう状況で、体育館をじゃあ建てようかと。当時、私は15年、PTA会長をやってまして、そのとき私は反対しました。それは確かに屋根が傷んでいる、直せばいいと。ただ建てるということになると、まだ築20年かそこらだったんです。体育館を建てると、また20年たったら本校舎を建てなきゃいけない。本校舎が建てて20年たったら、また体育館建てるのかと。そういうようなバラバラな建て方をしたら、これはだめじゃないかと。体育館がそういう状況であれば、ちょっと補修をして我慢するから、そして本校舎と一緒に建築をしましょうと。そういうことで、その我慢がそれから20年以上、我慢してきているわけですよ。

そして、合併して12年たちますが、体育館の屋根すら、まだ直っていない。そういうちょっとした修理とか何とか関係というのになると、体育館の周りの側溝も、あれ全然やってませんね。去年でしたか、おとしでしたか、給食車が入るところにボウフラが沸いて、夏の間中、大変不潔だというようなお話もしましたが、それすら解消されていない。側溝はもちろん手つかずだと。私が見ると何もしてないという。

この小学校の改築の問題というのは、実は合併当初は学校再編という行方がわからなかった。山形をまず一つの基本的には方向性としては、一つの小学校、一つの中学校という、そういう考え方で進めていこうという、そういう大まかなところはあったわけけれども、じゃあこの学校に統合するののかというのは決まっていなかった。ですから、それが決まるまでは、山形小学校の改築とか新築とかというのは封印されてきたわけですよ。

そして、平成23年になって、23年明け、24年の4月1日から日野沢小学校が統合になりましたね。次の年には荷軽部と戸呂町が統合になりました。つまり、そうなるって明らかに山形小学校に山形の全ての小学生、小学校の生徒たちを小学校を統合するんだよということが明らかになったから、23年に初めて山形小学校の改築問題というのが、この議場でまな板に乗ってきたんですよ。そういうようないきさつがあって、本来であれば、合併当初からそういう話が出るはずなのが、23年になって初めて出てきた。そして必要性がある。

私は、そういう今の財政状況も大変厳しいもんだと思っている。だから、すぐつくれとか、そんなことを言っていないです。何か共通したものを持てないのか、将来的に大きな目安として。そういうことを、共通した認識をお互いに共有できないかと、そういうことが一番大事だと思ってるんですよ。

旧山形村の学校って、みんな立派ですよ。立派な学校から43年もたった学校に移っているわけですよ。きのうも行ってみましたよ、学校に。よく掃除はしている。一所懸命掃除はしているみたいですね。ですから、使って使えないことはない、もう限界だとかって、もうあすあすには建てなきゃいけない、そういう状況ではないかもしれない。一部そういう状況もあるけれども、全体的には、あと何年我慢してくれとか、そういうことであるなら、それはそれで理解できるという。

私は、立派な日野沢とか荷軽部とか戸呂町の子供たちが、あんな立派な学校で授業をやって、遊んで、そういう子供たちが、鉄筋コンクリートの屋上屋根のついた近代的な山形小学校に来て、古い山形小学校に来て、今授業をやってるわけですけども、その子供たち、あるいはこれからまだ小国、来内、霜畑残っている。

中学校の合併は25年かかりました、1村1校にするのに。今回もかなりの時間を要するかもしれない。したがって、そこでどういう考え方を共有できるかと。子供たちが山形小学校へ集まってきて、よりよい教育環境のもとで遊んだり、勉強したり、そういうこともしてもらうために、全ての山形の小学校が何年かかるかわからない。10年かかるかもしれない。統合する、そのときまでには小学校を新築をするんだと。そういうような部分で、大きな目安として、そういう部分を共有できないかということ、教育長、お答えください。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 何度も申し上げておりますけども、小中学校の適正配置については、今検討しているところでございます。旧山形村時代に1村1校ということが決められていたということにつきましては、ちょっと承知しておりませんでした、いずれ前の計画どおり、現実に進まなかったものですから、新しい計画を今策定しておるわけでございます。

そういうことで、いわゆる1村1校ということになるのかどうかも含めて、これからの検討でございますので、そういう検討を踏まえた上での計画になろうかというふうに思います。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 小学校の1村1校を山形村で決めたなんて、私、言ってないです。それは久慈と合併してから決まったことじゃないですか。結局、山形小学校に山形の小学校を一緒にしていく方向でやりますよって決めたのは久慈じゃないですか。久慈の教育委員会じゃないですか。

だから、その形がはっきりするまでは、我々は山形小学校の改築問題について、議場でも封印してきたんですよ。それが決まるまで、方向が決まるまで、どこに統合するかわからない。だから、しゃべらないで来たんですよ。そして、それが決まって、現実に日野沢と荷軽部と戸呂町が山形小学校へ来ているわけですよ。繫小学校も来てます。残ってるのはあと三つですよ。

だから、言ってみれば1村1校みたいな形で山形地区の小学校を統合しよう、再編しようというのは、これは久慈の教育委員会が決めたことじゃないですか。その辺、認識違うんじゃない。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） いずれ山形の小学校も含めて、久慈市内の小学校、中学校をどのようにしていきたいかということにつきましては、今検討しているところでございますので、その検討をお待ちいただきたいというふうに思います。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 検討ばかりしたってしょうがないんですよ。何年かかるんだ、あと、答えて。いつもいつも同じ答弁ばかりしたってしょうがないでしょう。こっちは思いを持って質問してんだよ。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 教育委員会としましても、久慈市の学校をどうするかということにつきましては、思いを持って検討しておりますし、来年度の検討結果を出したいと思って、今進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 来年度に出すんですね。来年度ってことは29年度に出すんですね。ある程度の答えを約束できますか。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 小中学校の適正配置については、来年度に検討結果を出したいということで進めております。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） それはどういう意味なんですか。小中学校の適正配置については、山形には一学校があればいいとか二つあってもいいとか、そういうことを決めるということですか、中身は。その適正配置というのは、どういうことですか。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 適正配置というのは、いわゆる小学校をどのように統廃合も含めて進めていくか、あるいは今のままで行くかということもあるかもしれませんが、中学校についてもそのように、どのような学校配置にしていくかということでございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 何をやるにしたって遅いんですよ、やってることが。1年でできることを、何で



5年も10年もかかるんです。それは単にそういう適正配置の問題だけじゃないと思う。なぜ山形小学校の体育館の屋根が直らないの。中学校、直しましたか。何もしてないじゃないですか。答弁して。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 今、何もしてないというお話でございましたが、山形小学校につきましては、平成28年に屋根の工事をしております。今年度は外壁の修繕等を予定しております。山形中学校につきましては、天井の落下防止工事を平成27年、それからオストメイトの設置工事を平成27年、28年には屋根の防水の修繕もしております。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） 私、きのう山形小学校行ってきたんですよ、夕方。それで確認してきました。屋根の工事をやりましたかと。「やってません」って言ってましたよ。

時間がないけども、誰というわけにはいかないけど、校長さんと副校長さんはいなかった。それでちょっとお年を召した女性の方でしたけども。先生が2人いて、確認したら、「やってません」って。もしそれが、その先生方の認識が誤ってるのであれば、私、ここで言ったことについては訂正させてもらうけれども。そういうことで、私が今やってないじゃないかって言ったんです。間違いなくやってるんですね。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 間違いのないものと認識しております。

○議長（中平浩志君） 21番高屋敷英則君。

○21番（高屋敷英則君） いや、確認したとは言っても、私もきのうのことですから、信じてそういうふうにお話をしたわけですが、明らかにやっているということであれば、ここでおわびをしたい、その件については。

それから、いろんなことを、細かいことを言えば、それはやってもらってますよ。それから音楽室のドアも直してもらったし、洗面所も、トイレの中の洗面所が故障して使えないと、子供たちどこで手を洗うんだと。あれも直してもらいました。ただ、行ってみると、水あかがついた、もうどうにもならないような階段がある。それから、体育館の周りの側溝があります。住民から苦情が出てるんです。それが、教育振興室から

教育委員会のほうに通ってるはずなんです。放置してるでしょう。ボウフラが湧いてるんですよ。どうするんです、あれ。

○議長（中平浩志君） 時間です。

○21番（高屋敷英則君） 教頭先生か誰かが行って消毒すればいいかもしれないけれども、そういう問題かもしれないけれども、ボウフラの一件は。いずれ、計画をいろいろ立てて、こういうふうにやっていきたいという、迅速にやってください。そんな山形小学校の改築どうするんだって答えをもらうのに――

○議長（中平浩志君） 時間です。

○21番（高屋敷英則君） 10年かかったってしょうがない。よろしくお願いします。終わります。

○議長（中平浩志君） 中務教育部長。

○教育部長（中務秀雄君） 先ほど、小倉議員の答弁の中で、学区外就学の基準について、ホームページで公表していないという答弁を申し上げましたが、ホームページのほうで公表してございますので、答弁を訂正させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（中平浩志君） 再質問、関連質問を打ち切ります。

次に、創政・公明クラブ代表、桑田鉄男君。

〔創政・公明クラブ代表桑田鉄男君登壇〕

○11番（桑田鉄男君） 私は、久慈市議会第11回定例会議に当たり、創政・公明クラブを代表し、一般質問を行います。

昨年8月末に、観測史上初めてと言われます、岩手県に直接上陸し、久慈市にも甚大な被害をもたらしました台風第10号から早6カ月が経過しました。被災されました方々が一日も早く元の生活に戻られますことを願います。

また、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災大津波から、間もなく満6年となります。当市の社会資本の復旧復興は95%以上になっていると言われておりますが、死亡されました方々、そして行方不明のままの方々のご家族の皆様への心の復旧復興は、まだまだでございます。改めまして、犠牲になられました方、被災者の方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

以下、通告に従い、質問させていただきます。5番目の登壇であります。前の質問者と重複する項目もありますが、割愛せず、質問させていただきます。

第1の質問は、国内自治体との友好都市協定の締結についてであります。

昨年、新潟県小千谷市、そして東京都小金井市と災害時相互応援協定を締結しておりますが、友好都市締結はございません。国内自治体との友好都市締結の考え方についてお尋ねいたします。

第2の質問は、行財政改革についてであります。

行財政改革につきましては、各自治体、工夫をしながら取り組んでいるわけで、当市の行財政改革についての市長の認識、また、これまでの取り組み状況と成果、今後の行財政改革をどのように考えているかを問うものであります。

第3の質問は、震災経験等を生かした防災減災の取り組みについて、お尋ねいたします。

わずか6年弱の間に、東日本大震災大津波、そして台風第10号と、被災箇所も海岸部、中心街、山間部等、市のほぼ全域、被害額も500億を越す大災害を経験しました当久慈市、この経験を今後の防災減災にどのように生かしていくのか、お聞かせを願います。

第4の質問は、消防団各分団の貸与品についてであります。昨年12月の新潟県糸魚川市の大規模火災発生時に消防団が出動した際、強風と大量のすずで視界の確保に苦慮したと聞きます。同様の災害などに備え、各分団に対し、ゴーグルを貸与すべきと思いますが、いかがでしょうか。考え方をお尋ねいたします。

第5の質問は、自治基本条例の制定についてであります。条例制定に向けた取り組み状況をお伺いします。

第6の質問は、大学・専門学校の誘致についてであります。

若者の都市部への流出を抑制するためにも、大学・専門学校の誘致に積極的に取り組むべきと思いますが、考え方をお尋ねいたします。

第7の質問は、民間事業者による風力発電の営業活動についてであります。

昨年、秋口から民間風力発電事業者が侍浜地区で営業活動を行っているようですが、その状況をどのように捉えているのかお伺いいたします。

第8の質問は、久慈湾の検潮所についてであります。

津波注意報発令時に、久慈湾の検潮所は、より震源地に近い地域よりも高い潮位を観測する状況にあります。機器や設置場所に問題はないのかを問うものであります。

第9の質問は、久慈湾の静穏域の利活用についてあります。久慈港湾口防波堤計画が昭和63年度、国の直轄事業として新規採択されて以降、策定されたマリノードンプラン、いわゆる海洋の夜明け構想に沿って、静穏域の利活用を検討されてきたと思いますが、現在の状況と今後の進め方についてお尋ねいたします。

第10の質問は、在宅介護者への支援についてであります。

在宅介護は、家族にとって体力的、精神的に大きな負担になっているほか、老々介護などの問題もあります。介護者に対する支援をどのように考えているか、お伺いいたします。

第11の質問は、縁結び支援員についてであります。

縁結び支援員の活動状況と成果について、どのように捉えているかお尋ねいたします。

第12の質問は、学童保育所の整備についてであります。

学童保育所の整備が順次、進められておりますが、施設や設備が整っていない小学校区もあります。今後の整備計画をお伺いします。

第13の質問は、産業行政について、4点質問いたします。

1点目は、担い手育成の支援についてであります。一次産業の担い手不足は深刻な状況にあります。一次産業の担い手育成のために、支援制度や体制を充実すべきと思いますが、考え方をお聞かせ願います。

2点目は、水産振興について、4点質問させていただきます。

一つ目は、水産加工業者の加工原材料不足を補うためにも、まき網漁船等をより積極的に誘致すべきと思いますが、考え方をお伺いいたします。

二つ目でございます。市の花・鳥・木、いわゆる花鳥木に加えて、市の魚を制定し、ブランド化、そして水産振興に取り組むべきと思いますが、考え方をお尋ねいたします。

3点目は、久慈秋まつり前夜祭会場についてであります。年度により、駅前広場、市役所庁舎前、アンバーホール駐車場、土風館前と、会場を変更しておりますが、会場選定の考え方、今後の方向性について、お伺いいたします。

4点目は、観光振興についてであります。日本への外国人観光客が増加している状況にあります。本市

の外国人観光客誘客に向けての取り組み方をお尋ねいたします。

第14の質問は、台風第10号被害の復旧状況について、3点、質問いたします。

1点目は、市が行っている復旧工事の進捗状況、2点目は、県が行っている久慈川の大規模治水工事の概要について、3点目は、久慈溪流沿いの国道281号の旧道部分をどのように復旧するのかについてお尋ねします。

第15の質問は、市道小久慈線の渋滞解消についてであります。

朝夕の渋滞解消のためにも、旧久慈歯科付近に右折レーンの整備が望まれておりますが、整備の見通しをお示し願います。

第16の質問は、久慈川の堤防整備についてであります。

久慈川の堤防未整備区間の築堤は、県への重点事項要望項目でもあり、早期の整備が望まれておりますが、その見通しについてお伺いいたします。

第17の質問は、総合運動公園整備についてであります。

整備構想を進めるに当たり、昨年12月に実施したワークショップで出された意見等はどのようなものがあったのか、またその意見等を今後の計画にどのように反映させていくのか、お尋ねいたします。

第18の質問は、教育行政について、2点質問いたします。

1点目は、小中学生の問題行動等についてであります。全国的に小中学校でのいじめや問題行動が多く報道をされておりますが、当市の実態をどのように捉えているのかお尋ねいたします。

2点目は、子供の肥満についてであります。岩手県の小中学生の肥満率が全国ワースト上位にあると聞きますが、当市の肥満の状況と対策についてお伺いします。

以上で、登壇しての私の質問を終わりますが、多年にわたり市職員として市政発展にご尽力され、この3月末をもって退職なさいます職員の皆様方に、心からの敬意と感謝を申し上げます。今後におきましても、職員の立場ではなくなるわけでございますが、健康には十分に留意されまして、これまでの豊富な経験をもって私どもをご指導くださいますようお願い申し上げます。

まして、降壇いたします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

〔市長遠藤謙一君登壇〕

○市長（遠藤謙一君） 創政・公明クラブ代表、桑田鉄男議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、国内友好都市協定の締結について、お答えいたします。

国内都市との協定の締結につきましては、現在、新潟県小千谷市と災害時における相互応援に関する協定、東京都小金井市と災害時相互応援に関する協定を締結しているところであり、今月の下旬には、三重県明和町と地方創生に係る連携協定の締結を予定しているところでもあります。

都市間交流につきましては、交流人口の拡大による地域活性化を図る観点からも非常に重要であると捉えており、友好都市協定につきましても、こうした交流を継続的に重ねる中で、都市間相互の機運の醸成を見極めながら検討してまいります。

次に、行財政改革についてお答えいたします。

行財政改革につきましては、限られた財源の中でも良質な公共サービスが確実、効率的に実施されるよう、普段の取り組みが必要と捉えております。市長就任以来、副市長の一人制、部の統合などの組織のスリム化などを実施し、現在は、市政刷新推進本部会議において、公共施設の適正配置、職員定数の適正化などの検討、政策推進会議においては、新年度予算編成に向けた事業の実施方針の検討を実施し、歳入確保や適正な歳出規模の維持などに取り組んできたところであります。

今後とも、当市を取り巻く厳しい環境の中、限られた経営資源でよりよい行政サービスの提供による市民満足度の向上に努めるため、行財政改革と財政健全化に向けて、全庁、全職員が一丸となって取り組んでまいります。

次に、震災経験を生かした防災減災の取り組みについてお答えをいたします。

東日本大震災及び台風第10号災害の経験から、災害時においては、まず市民の皆様へ、迅速で正確な防災情報の伝達が重要であると捉えており、防災行政無線をはじめ、通信網を活用したさまざまな情報発信に取り組んでまいりる考えであります。

また、市民一人ひとりの防災意識の向上と、自主防

災組織の育成による地域防災力の向上を図っていく必要があることから、防災センターを利用しての防災学習、地域での勉強会、ハザードマップの更新や各種チラシの配布など、地道な活動も重要と考えております。

また、災害後の対応である避難所の運営やボランティア受け入れなど、各分野の活動についても検証し、今後の取り組みに生かしてまいります。

次に、消防団各分団の貸与品についてお答えをいたします。

消防団の装備につきましては、平成26年2月に改正をされた、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の中で、装備の基準が拡充されたところであり、これまで国の交付金事業を活用するなど利用度の高い装備から、その充実に努めてきたところであります。ゴーグルにつきましても、消防団員の視界の確保を担う重要な装備の一つであると規定されており、他の装備品等との優先度や市の予算状況を勘案しながら貸与を検討してまいります。

次に、自治基本条例の制定についてお答えいたします。

制定に向けた取り組み状況についてであります。自治基本条例につきましては、自治体運営の基本的なルールや住民の権利、まちづくりの方向性等について規定する条例であり、市民が主体的にまちづくりに取り組むために大変意義深いものと捉えております。

昨年は、市民との対話により、当市の新しいまちづくり及び市政運営の基本方針として、久慈市総合計画を策定したところであります。自治基本条例につきましても、市民の皆様の声をお聞きするとともに、条例の意義を十分理解していただくことが必要であると考えており、平成29年度中の制定に向けて検討してまいります。

次に、大学・専門学校の誘致についてお答えをいたします。大学・専門学校の誘致につきましては、高校卒業後に進学のため久慈市を離れる世代の市外流出を抑制するとともに、学生・教職員の消費効果、学校運営に係る地元雇用の創出、さらには建設工事による経済波及効果など、多くのメリットがあると捉えており、実現に向けて今後とも積極的に取り組んでまいります。

次に、民間事業者による風力発電の営業活動についてお答えをいたします。

待浜地区で行われている営業活動の状況であります

が、小型風力発電に関する営業活動について、市民から市に対して問い合わせがあったことから、個人宅を訪問していることは承知しておりますが、営業活動の具体的な内容は詳しくは承知していないところであります。

また、小型風力発電所用地を探している事業者数社から設置場所の決定に係る関係法令の窓口などについて、照会を受けております。

市といたしましては、再生可能エネルギーの導入は促進しておりますが、小型風力発電につきましては、環境アセスメントの規制がなく、騒音等による問題も発生しているとの報道もあることから、今後とも市内における小型風力発電事業の動向を注視してまいります。

次に、久慈湾の検潮所についてお答えいたします。

検潮所は、毎日の潮位を測定、記録することを目的とし、湾口防波堤の整備に必要なデータの収集等を行うものであり、津波観測計ではないことから、湾奥の高積波とイレギュラーな波の影響を受けない場所に設置するのが通常であり、現在の位置が最適であると釜石港湾事務所から伺っているところであります。

次に、久慈湾の静穏域の利活用についてお答えいたします。

静穏域の利活用の状況につきましては、昨日も政和会代表、佐々木議員にお答えいたしましたとおり、湾口防波堤の完成を見据え、現在、アワビ、カキ及びホヤ等の養殖試験を行っているところであります。

今後の進め方につきましては、湾口防波堤工事の進捗により、湾内には静穏域が拡大していることから、具体的な利活用が図られなければならないと考えており、まずは養殖漁業のように既に取り組んでいるものから先行し、今後は各担当部局による具体的な検討を進めてまいります。

次に、在宅介護者への支援についてお答えをいたします。

当市では、要介護者を在宅で介護している介護者に対して、介護者の心身のリフレッシュと介護者相互の交流を図るため、家族介護教室を開催し、介護者の健康管理や精神的な支援に努めております。また、要介護者の在宅生活の支援のために介護用品の支給を行い、家族介護者の身体的、精神的、経済的負担の軽減を図っているところであります。

高齢社会の進展により、要介護認定者や認知症高齢者は増加傾向にあり、介護者の負担は増大するものと推測されますことから、今後、要介護者が住み慣れた自宅で安心して生活していくために、地域包括ケアシステムの構築を進めるとともに、計画的な施設整備を行い、家族介護者の負担軽減に努めてまいります。

次に、縁結び支援員についてお答えいたします。

現在、12人の縁結び支援員が活動しており、縁結び支援事業の支援申込者は、男性11人、女性1人となっております。主な活動状況ではありますが、支援スキル向上のための講習会への参加及びいきいき岩手結婚サポートセンターや婚活イベント等の情報について、随時支援申込者にお知らせするなど、結婚につながる支援を行っております。

なお、現在は、1人が交際中と伺っておりますが、結婚という一定の成果を得るためにはある程度の時間を要するものと捉えております。市といたしましては、少子化対策としての結婚支援は重要な課題と認識しており、いきいき岩手結婚サポートセンターとも連携しながら、さらに充実した支援に努めてまいります。

次に、学童保育所の整備について、お答えをいたします。

今年度におきましては、登録児童数の増加により、特に児童の生活スペースが狭くなっている長内学童保育所の増設と、学童保育所が未整備であった大川目小学校区に学童保育所を創設しているところであり、新年度からは8小学校区に10施設が設置される予定となっております。利用児童数は年々増加している状況であり、子育て世代における共働き世帯の増加などによって、学童保育に対する利用ニーズは高まっているものと捉えておりますので、今後におきましても、登録児童数の推移、保護者のご要望、財政状況等を勘案しながら、施設整備に努めてまいります。

次に、産業行政についてお答えをいたします。

まず、担い手育成の支援についてであります。農業につきましては、県単独補助事業であります。いわて地域農業マスタープラン実践支援事業を活用し、生産施設及び機械の整備に助成しているほか、新規就農者に対しましては、市単独補助事業であります新規就農者育成確保対策事業による融資返済への助成や、国の支援策であります青年就農給付金の給付により、就農初期の負担軽減等を図っているところであります。

また、農業の担い手として相互研さんや経営改善、情報交換等を通じて、連帯感の醸成等を目的に組織された久慈市中核農家クラブや久慈市農村青年クラブの活動に対して、活動補助金を交付するなどの支援を行っているところであります。

林業につきましては、県及び市において、補助を行っている、原木しいたけ新規参入支援事業を活用し、原木シイタケ生産に係るほど木造成費用に対し、補助を行っているほか、市単独補助事業である木炭生産施設整備事業において、木炭生産に係る大量製炭窯及び附帯施設に対し、補助を行っているところであります。

また、平成29年4月から、岩手林業技術センターにおいて、林業アカデミーが開校され、15名が研修生として採用予定となっております。このうち3名が久慈東高等学校からであると伺っているところであります。

林業アカデミーにおいては、緑の青年就業準備給付金事業を活用し、研修生が安心して研修に専念できるよう、一月当たり12万5,000円が支給されることとなっており、このアカデミーにより、林業就業者の確保が進むことを期待しているところであります。

水産業につきましては、市単独補助事業において、アワビ、ウニの種苗放流や深淺移殖、ナマコ増殖事業等に助成を行い、生産の安定化を図っているほか、新規漁業就業者に対しましては、久慈市漁業協同組合において、国の支援策である漁業復興担い手確保支援事業を活用し、平成28年度において5名の受け入れを行ったと伺っているところであり、新年度においても、その後継事業である新規漁業就業者総合支援事業により、新規漁業就業者の受け入れを行った指導者に対して、給付金を支給し、担い手の確保を図ることとしております。

また、漁業就業者確保に係る担い手協議会の設立を検討しているところであり、同協議会において、青年漁業者や女性の視点も含めた、当地域に求められる施策や仕組みなどを協議していく予定としているところであります。

今後におきましても、一次産業の担い手確保は最重要課題と認識しておりますことから、担い手育成支援策の充実について、種々検討を行ってまいります。

次に、水産振興についてであります。まき網漁船の誘致につきましては、久慈市漁業協同組合が来年度において新規に実施する予定と伺っているところであ

り、市といたしましても、同組合と連携しながら積極的な誘致活動を行い、加工原料の確保に努めてまいります。

次に、市の魚の制定についてであります。水産都市久慈を象徴する魚を定めることは、当市の基幹産業である漁業の振興に一定の効果をもたらすものと考えております。

一方、岩手県では、既に県の魚としてサケを制定しており、市独自の魚種の制定に当たりましては、市民誰もが納得する魚種の選定及び選定外となった魚種の振興策など、検討すべき課題もありますことから、市民の皆様や関係者等の意見を広くお伺いしながら研究を進めてまいります。

次に、久慈秋まつりの前夜祭会場についてですが、会場選定につきましては、山車組及びみこし組で構成されます久慈秋まつり実行委員会において毎年協議し、決定されているところであります。これまで、久慈駅前広場をはじめ、久慈市役所、やませ土風館、アンバーホールで実施されてきたところであり、会場選定の視点といたしましては、山車及びみこしの配置スペースをはじめ、来場者の観覧スペースや安全性の確保、会場までの山車の運行面などさまざまな要素を勘案し、決定していると同委員会から伺っているところであります。

今後の方向性についてであります。これまでと同様、同委員会において、さまざまな条件を勘案し、決定されるものと捉えておりますが、一方、現在進めております久慈駅前整備におきましては、久慈秋まつり前夜祭の開催を可能とする観点で設計を行っているところであります。

次に、観光振興に係る当市の外国人観光客誘致の取り組みについてであります。岩手の観光統計によりますと、岩手県内の平成27年の外国人観光客の入込人数は、前年対比42.2%増の12万1,491人となっております。また当市の平成27年の同入込人数は、前年対比85.3%増の925人となっているところであります。

当市の取り組みといたしましては、台北国際観光博覧会など海外でのPR活動、海外の旅行エージェントを対象とした商談会への参加、パンフレット、ホームページの多言語化や観光施設へのWi-Fi設置のほか、体験型観光による誘客に取り組んでいるところであります。また、当市を舞台とした海外テレビ局によ

る番組撮影の機会がふえつつあり、当市の魅力をより効果的に発信する機会であると捉えておりますことから、積極的に支援するとともに、関係組織や団体等と連携しながら、さらなる外国人観光客の誘客に取り組んでまいります。

次に、台風第10号被害の復旧状況について、お答えをいたします。

まず、市が行っている復旧工事の進捗状況についてであります。市道、林道、河川、公園、漁港施設などが被災し、現在、復旧工事を進めているところであります。その進捗状況についてであります。市道及び林道につきましては、孤立化解消などのための応急復旧工事を行ったところであり、本格的な復旧工事につきましては、来年度以降を予定しております。

河川、公園、下水道施設などにおいても、同様に応急復旧工事が完了したところであり、今後、本復旧を順次進める予定としております。また、漁港施設につきましては、年度内には全ての復旧工事が完了する予定となっております。いずれの工事におきましても、1日も早い復旧に向け、全力で取り組んでまいります。

次に、県が行っている久慈川の大規模治水工事の概要についてであります。河川管理者である県北広域振興局からは、台風第10号のような災害が繰り返し発生しないように、河道内の流木撤去や堤防からの越流があった箇所を含む区間について、河道掘削を行っていると同委員会から伺っております。

市といたしましては、今後とも河川の適切な維持管理が図られるよう、河川管理者である県北広域振興局に対し、引き続き要望してまいります。

次に、久慈溪流沿いの国道281号旧道部分の災害復旧についてであります。市道認定し、供用されている区間については、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法の対象となり、災害復旧工事を行うこととしております。

また、当該路線は、県立自然公園など関係機関との協議が必要となることから、自然環境に配慮した復旧に努めてまいります。

次に、市道小久慈線長内橋付近の渋滞解消についてお答えいたします。

昨日の政和会代表、佐々木議員にお答えいたしましたとおり、右折レーンを設置した交差点改良が有効であると考えており、今月、交差点詳細設計業務を発注

し、設計がまとまり次第、用地及び補償の交渉を行い、工事を実施する予定としております。

今後におきましても、早期完成が図られるよう整備促進に努めてまいります。

最後に、久慈川の堤防整備についてお答えいたします。

久慈川の堤防未整備区間の築堤についてであります。河川管理者である県北広域振興局からは大成橋上流右岸の無堤区間については、治水対策を検討していきたいと伺っております。市といたしましても、当該箇所の築堤について、早期完成が図られるよう県北広域振興局と連携を図ってまいります。

以上で、創政・公明クラブ代表、桑田鉄男議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 創政・公明クラブ代表、桑田鉄男議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、総合運動公園整備についてお答えをいたします。

まず、昨年12月に実施したワークショップで出された意見についてであります。施設の規模や施設に附属する管理棟内部の設備、照明や放送設備等の備品の追加、フィールドやスタンドの座椅子等への要望が出されたところであり、出された意見等につきましては、実現可能な範囲で計画に反映させるよう検討してまいります。

次に、小中学生の問題行動等についてお答えをいたします。

いじめ・暴力行為については、いじめ及び暴力行為の問題に関する実態把握調査として、学期ごとに調査し、状況を把握しております。また、不登校児童生徒については、毎月欠席が7日以上及び累積欠席日数が20日以上となった児童生徒について、各学校の状況を取りまとめております。

このほか、文部科学省の児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査で、暴力行為やいじめ、長期欠席等の状況を毎年度調査しており、平成28年4月に実施した同調査での久慈市のいじめ認知件数は、小学校は66件、中学校は37件となっております。また、今年度教育委員会に報告のあった問題行動は13件となっております。

今後も各学校と連携を密にし、未然防止に努めるとともに、早期発見早期対応が図られるよう継続した指導支援をしてまいります。

次に、子供の肥満についてお答えをいたします。

当市の児童生徒の肥満率であります。今年度の状況は13.52%であり、岩手県の児童生徒の肥満率10.79%、全国の児童生徒の肥満率約8%と比べ、高い数値となっております。

対策として、各学校において、休み時間を利用したマラソンの実施、栄養教諭による食育指導など、運動、食事、栄養管理等、多様な面から肥満対策に取り組んでいるところであります。今後におきましても、継続的に肥満対策を行い、児童生徒の健康の保持増進に努めてまいります。

以上で、創政・公明クラブ代表、桑田鉄男議員に対する私からの答弁を終わります。

○議長（中平浩志君） この際、昼食のため休憩いたします。再開は午後1時30分といたします。

午後0時17分 休憩

午後1時30分 再開

○議長（中平浩志君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

創政・公明クラブ代表、桑田鉄男君の一般質問を継続し、再質問、関連質問を許します。11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 再質問させていただきます。最初に、項目の1番目の国内友好都市協定の締結についてでございます。

実は、昨年10月なわけですが、袖ケ浦の市議会議員の選挙があったようです。そこで、候補者の方、当選した方のマニフェストなんです。26年に友好交流協定、議会ですが、これを始めた久慈市との物産交流を始める、そして両市間の経済交流に発展させますというのをマニフェストに持った方がございました。いずれ、なかなか簡単に、すぐそれじゃ、友好交流協定というのも大変かなとは思いますが、こういうことをしながら発展的に進めていけばいいんじゃないかなと思うんですが、実は、市長が1月の末に袖ケ浦を訪問したと聞くんですが、そのときの感触をお聞かせをいただきたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 1月30日に袖ケ浦市にお邪魔

いたしまして、市長さんとお会いしてまいりました。久慈市議会と袖ヶ浦市議会がこれまでも交流を重ねているということもありましたので、表敬訪問を兼ねてお訪ねいたしました。

その際に、友好都市協定、あるいは防災協定のお話を私からいたしました。袖ヶ浦の市長さんは、慎重に考えていきたいというお話がありましたので、これから時間をかけておつき合いをしていきたいと思いますというお話になりました。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 私ども会派で去年、いわゆる経済交流ということで、いろんな食材等を持って、出口市長さんにも出席をいただいて、いろいろ交流をしたわけですが、そのときに、市長さんのほうから、とりあえずは防災の協定でもという話が出たものですから、私どももすごく期待をしておったんですが、今、慎重にというふうな話があったということのようでございます。

いずれ、議会が先行して、いろいろ交流をしてるんで、もしできるのであれば、機会を捉えて、議長なりと一緒に訪問するとか、あと総合政策部長も任期がなくなるんですが、局長時代、そして昨年、私どもと一緒に訪問してますんで、いろいろ状況詳しいと思うんで、その辺は一緒になってやっていけばいい方向に行くのかなと思ってました。

いろいろ議員さん方とお話をする中では、いずれ経済交流、やっぱりこれが大事だなと、袖ヶ浦には袖ヶ浦のやっぱり農産物なりいいものがあると。久慈は久慈で海産物、水産物等もあるんで、そこら辺をいろいろ持ち寄りながら交流できればいいな、そして将来的には友好都市の協定までいけばいいなというふうな話もしてございますので、双方が議会、そして市長さんのところでいろいろ突き合わせ、話し合いをしながら取り組んでいければいいのかなと思うんですが、再度、考え方をお尋ねします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 私、かねてから国内の各全国の市町村ともいろいろおつき合いをして、物産観光、そして災害があった際には、お互いに支援し合うというふうなネットワークづくりが非常に重要だと思っております。今回もできればというお話をしたんですが、袖ヶ浦市長さんは、全国いろいろな形でのそうい

ったおつき合いもたくさんしていますというお話がありまして、災害については、東京都の直下型地震等の話題も出てるわけですけども、災害については万全ですというふうなお話もありまして、ちょっとこれは時間をかけながら、ちょっと時間をかけていく必要があるなというふうに思っております。

物産の交流については、これは民間レベルでもできますので、それは進めたいと、私もぜひこれは進めたいと思って行ったのですが、何せ相手があることですので、そういうふうな、今回はそういうお話になりました。これからは議会でせつかくのこういうおつき合いがされてますので、大事にしていきたい相手だというふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） いずれ、せつかく交流がってますんで、この火を消すことなく、今後もいろいろ取り組んでいければいいなと思うので、私どものほうでもそれなりに頑張りますんで、よろしくお願いをしたいと思います。

次に、行財政改革のところ。実は、いろいろ市長、先ほどの答弁では、取り組みもしているし、それなりの効果も上がっているというふうな答弁だったと思うんですが、保育園の民間移譲に取り組んで、長内保育園、そして侍浜保育園が民間に移ってます。その後、話が出てないんですが、その考えは、もうなくなったということでしょうか。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 保育園の民間移譲の件でございました。今現在、久慈市の公立の大きい保育所は、小久慈と、それから久喜ということですが、久喜につきましては移譲も考えてはおりますが、なかなか受けるところがないという状況にございまして、話が進んでいないという状況にございます。

また小久慈につきましては、小久慈は、障害をお持ちのお子様も結構預かっておりますし、民間で受け入れていただけない場合は小久慈でお預かりするというケースもございますので、小久慈につきましては、継続して公立でやっていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） いずれ市政刷新推進本部会議



ですか、ここでいろいろ検討をされているということのようですが、いろいろ効果等につきましては、内部での評価、それから外部での評価、いろいろあると思うんですが、やっぱりきちんとした評価をしていくためには、外部から評価してもらおうということも非常に大事なことではないかなと思うんですが、そういうふうな考えはないか、お尋ねをします。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 行財政改革で、今桑田議員お話しのとおり、市政刷新推進本部会議を何回も開いて、今やっているところでございます。現在の刷新推進本部会議は、いわゆる庁内メンバーによるものですので、それぞれの担当部署で公共施設の指定管理とか、公共施設の廃止、民間移譲、それから公共施設の移転配置、利用料金の見直し、公民館のコミュニティセンター化、組織職員定数、小中学校の適正配置、国保税の見直し、それに超過勤務の縮減を加えまして、この9項目でやっております。

庁内メンバーでそれぞれの部署がそれぞれ取り組んでいるところでございますが、今お話しのような外部からの視点というものも非常に重要だと思ってました。そういう部分で、その部分につきましては、今後やっぱり検討していきたいと考えております。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 市長の施政方針演述の中にもあったんですが、いずれ歳入についても、大変厳しい状況になっていると思います。合併から10年を経過したことで、交付税の算定替え等もあります。そういうことで、いわゆる隠れ再建団体に近いようなところもいろいろあちこちで出ているとも聞くわけでございます。そういう状況にならないためにも、ぜひこの外からの視点、外部からの視点を大事にしながら、この行財政改革にも今後も積極的に取り組んでいただきたいと思うんですが、市長、どうですか。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） 市の内部の評価ですと、やはりともすると甘くなりがちなんです。現場の状況がわかる、いろいろ関係の方の顔も見えてくるとか、そういったこともありますので、やはりこれでは、そういう状況では改革が進まないというふうにも感じておりますので、外部からの目線で評価いただいて、それに基づいて方針を定めるということは非常に大事だとい

うふうに考えておりますので、ぜひその方向で進めてまいりたいと思っております。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 次に、震災経験を生かした防災減災の取り組みについてでございます。

これも実は2月に、東京都の小金井市の市長さん、そして篠原議長さんを表敬訪問しました。会派で行って、政和会の砂川議員にもご同行願ったんですが、そのときに、西岡市長さんのほうから、久慈市は大津波、そして台風災害、この大きな災害を経験しているんで、東京都のさつき市長のほうのお話にもあったんですが、直下型地震等も想定される、こういう中で、久慈市の経験をぜひともご教示をいただきたいというのが挨拶の中にもございました。小金井市の市長さん、言うとおりでございますし、このことは小金井市が参考にしたい、そういうふうな話でございましたので、きちんとよかった点、問題点、いろいろあると思うんで、その取り組み状況については把握をしていなければ、いずれ小金井の市長さんなりにも聞かれるときが来るんじゃないかなと思いますので、その辺について、きちんと取り組みをすべきと思うんですが、考え方をお尋ねします。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） 小金井市長さんのほうからそういったお話があったということで、まさしく大震災、それから台風10号と大きな災害を続けて被ったわけでございますけれども、それに対する対応した検証といいますか、反省点、それからどうやっていくべきかという部分は非常に大切な部分だと思っております。

ただいま検証作業も継続してやっておりますけれども、それらを取りまとめまして、今後の方向性等も含めて今検討をしているところでございますので、議員おっしゃったとおり、そういった部分については、しっかりと取りまとめをして、考え方をまとめていきたいというふうに考えております。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 次に、6番の大学・専門学校の誘致についてでございます。

市長の答弁も、多くのメリットもあるんで積極的に取り組みたいということでもございました。やっぱりこういう大学なり専門学校、こういうのがあるところは

比較的元気があるまちだとも言われております。また、大学の一極集中の是正、これも国のほうでも話が出ているようでございますので、アンテナを高くしながら、いろいろ情報を得ながら、積極的に進めていただければと思うんですが、再度お考え方についてお尋ねをします。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） ただいまの点でございますけれども、日本全体が少子化が進んでいくというふうな状況の中で、新設大学の誘致は非常に難しいというふうに思っております。以前ありましたアレン短大についても、入学者が確保できないということで廃校というふうなことにもなりました。

さらに状況が厳しくなって、今もう大学間の学生集めの熾烈な競争が始まっているというふうにも言われております。東京都では、郊外に移転した大学が都心部に再回帰だと。やはり学生志向としては、東京でもまた中心部に希望者が集まる傾向もあるというふうには聞いておりますが、国においては、地方分散を検討されているということですので、これについては、久慈市も、そういう意味ではその分をしっかりと取り組んでいく必要があるというふうに思っております。

久慈市には、専門学校も全くない状況です。現在、介護関係の専門学校、できれば看護の専門学校を久慈市にもぜひ欲しいというふうに、地元の需要も非常に高いわけですが、ただ、看護系につきましては、盛岡周辺に四年制大学を二つ開校すると、2校開校するというので、県内でも盛岡周辺に集中する傾向がありますので、当面は介護関係、これについて、いろいろ声かけもして、具体的にはお話しもいただいているところもありますので。ただ可能性はこれからということの段階ですが、まちの活性化、経済の活性化の上も含めて、そういった学校が開設されるというのは非常に久慈市にとって大きな明るい話題になると思っておりますので、これについては、今後とも引き続きしっかりと取り組んでまいります。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） さっきも話しましたが、いわゆる今市長の答弁にもあったとおり、一極集中、集中されるのを何とか分散をというのもあるようですので、アンテナを高くしながら、情報を得ながら取り組んでいただきたいと思っております。

あと、次に、久慈湾の潮位を測る分なんですけど、私の認識不足だったんだかもしれませんが、計測ヤードと申しますか、市場の向かいのほうにあるところで、津波等のときも潮位を測っているのかなと思ったら、先ほどの答弁ですと、何かそんな感じじゃないのかなというふうなことだったんですが、その辺、ちょっとお聞かせいただきたいと思っております。どこで津波のときには潮位を観測しているのか。

○議長（中平浩志君） 川合港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（川合政伸君） 津波の計測につきましては、久慈湾の中の諏訪下地区、すいません、堀込地区、特に漁協さんの向かいあたりに検潮所がございます。そこから津波の観測を行っているというところでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 先ほどの答弁ですと、今の位置で問題がない、最適だというふうな答弁だったんですが、そうすれば、あそこで問題がないという捉え方でいいんですか。

○議長（中平浩志君） 川合港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（川合政伸君） 以前にもお話ししましたが、久慈の湾の特別な地形によって、かなり津波のほうの水位が地形の影響で高くなるという現象があるというふうにお伝えをしておりました。実際におきましては、津波は実際よりも低い数字になるかと思いますが、実際にこの堀込地区において、それだけの津波が来ているということであれば、逆にその津波の高さを低く表現するということは、非常に安全上問題であるのかなというふうに考えています。

以上です。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 実は、去年の11月の津波注意報が出た、その前のチリ津波もそうです。いずれも全国放送でNHKでバンバン岩手県久慈市がもう潮位が高いということで流れるんで、いろんなところから心配をして電話をもらったりとかしています。逆に、今部長の答弁のとおり、低めに出るよりは高めに出的ほうがいいのかもかもしれませんが、ただあまりいい、何と言いますか、感覚は持たれないのかなと、久慈は波が高

いところだと、津波が来るところだというふうな感じに思われるのもいかなもんかなというふうな気がしますし、これは直接関係ないかもしれませんが、教育旅行の関係も、去年まで来ていたところが2校かな、ことは来ないということにもなったやにも聞きます。そういうのが影響していなければいいなと思っているんですが、ちょっと心配な部分なんで、いかがでしょう。

○議長（中平浩志君） 川合港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（川合政伸君） 少し高いということで、新聞などにも日本の中で一番高いところは久慈港だという、言い方を変えれば、非常に悪いような風評を受けているというところはたしかでございます。

ただ、東日本大震災が起きたとき、湾口防波堤につきましては、まだ700メートルしか概成してなかった。今はどのぐらいかと言いますと1,865メートルということで、非常にこの6年間で1,000メートル以上も延びているということで、非常に急ピッチで湾口防波堤をつくっているところでございます。

この湾口防波堤ができれば、地形による水位の上昇ということは、まず考えられないものでございますので、しばらくの間、この整備について見守っていただければということに思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 今湾口防波堤の話が出ました。いずれ通告でもしてるんですが、湾口防が完成した後の静穏域の利活用についてでございます。

これは先ほど登壇しての質問でも申し上げましたが、国の直轄事業として湾口防が採択して以来、マリノドープラン、古い話を持ち出して申しわけないんですが、海洋の夜明け構想ということで、これから見ますと、ほぼ順調に進んでいると思ってました。

安全防災対策、これにつきましても、いずれ半分、ことしで湾口防もできるということでございますし、あと大型港湾の利用とか、あとは半崎工業団地、県誘致ですが、ここには北日本造船がやはりついて、大変従業員の方もたくさんいるということで、これもいい方向に行っているし、あと水産業の振興ということになれば、先ほど市長の答弁にもあったとおり、いろいろ今試験等にも取り組んでいるアワビ、カキ、ホヤと

いうもの等も具体的な検討を始めているということで、ほぼ順調に進んでいると思うんですが、これが大事だなと思ったのが、観光レクリエーション基地の開発というのが、このプラン構想にあったわけでございますが、こちらについての検討状況、取り組み状況はどういうふうになっているのでしょうか。

○議長（中平浩志君） 川合港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（川合政伸君） ただいまお話のございましたように、マリノドープランというところがございまして、湾口防波堤ができれば、1,200ヘクタールの非常に広い海域があるというところで、この利活用をぜひ考えていきたいというふうに考えております。

現在におきましては、南防波堤ができたということで、逆に湾の南側のほうが、もう既に静穏海域になっている部分があるというところで、そのことにつきまして、水産関係のことでいろいろな具体的な対策というものを実験しているというところでございます。

一方で、観光交流につきましては、各方面からいろいろ、調査をしているところでございますけれど、なかなか進展がしないと、まだまだちょっと早いのではないかと、全域の湾というのが、まだ穏やかでないというところもございまして、少しスピード的には検討ができてきているというところでございますが、残り12年で湾口防波堤が完成するというのを考えますと、もうそろそろ具体的に各分野でしっかりとした検討を積み重ねていかなければならないというふうに考えておりますので、これからはピッチを早めて進めていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（中平浩志君） 11番桑田鉄男君。

○11番（桑田鉄男君） 時間がなくなりましたが、急いで質問します。13番の産業行政のところの水産振興、花鳥木に加えて、市の魚を制定すべきという、先ほど提案をいたしました。市長からは、いずれいろいろ検討したいと。ただ、制定されなかった、除外された魚についてはどうなのかなというふうな話もあったんですが、いずれ、それはそれでいいと思うんですが、こう見ていけば、近くでは、階上町、ここはアブラメを町の魚にしています。そして、昨年、暮れには、どんこ祭りも開いたようです。あと洋野町は、もうあまりに

も有名になったのはウニでございます。あと隣の野田はホタテですし、普代のサケは、ホテルニューオータニの中島料理長が直接来てみて、普代のサケを年間5トンぐらい使うという話にもなったようですし、あと宮古市ではタラ、これが6年連続日本一の水揚げがあったということで、タラのブランド化を図るといのも出しております。

ただ、ご承知、前にも質問したことがあるんですが、タラについては、久慈、九戸、種市、洋野のほうを含めて、宮古港にはこちらの漁業者の人が大分貢献をしていると思います。水揚げされたものをほとんど宮古に配っている状況もございます。そういうことも考えながら、ぜひ市の魚も制定をしていただきまして、ブランド化を図ったり、水産振興をしていただければと思うんですが、時間がないので簡単にいいですので、お答えをいただきたいと思ひます。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 市の魚の制定についてのところで、近隣の市町村等の取り組み状況についてもご紹介をいただきました。当市の場合にも、いろいろと魚種的にはあるわけでございますが、ただいまのタラの件もそうですし、それから八戸がイカを売っているというふうなことで、当市もかなりイカについては、2年前までは相当な水揚げがあったわけでございまして、高鮮度のイカを何とか販売できないかというふうな取り組みについても、現在行っているところでございますので、いずれ久慈市ならではのものというふうなことで発信できるようなものを今後とも検討してまいりたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 創政・公明クラブの桑田議員の一般質問に関連し、質問項目12番、学童保育所の整備と、13番、水産振興を関連質問いたします。

まず第1点目の12番、学童施設所の整備についてでございます。

先ほど来、市長からの答弁がありました。実は、27年12月、そして28年3月にも質問が出ておりましたけれども、長内学童、そして小久慈学童が優先的に改善をしていかなければならないという話があったわけがあります。長内学童につきましては、今年度4月1日から入所ができるというように聞いているわけであり

ますけれども、昨年の台風10号に対して莫大な損害を受けている中で、施設のほうの当初の計画どおりの支出ができたのかを問ひます。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 長内学童の計画どおりの整備というご質問ととれましたが、それによろしかったでしょうか。

長内学童でございますが、4月1日からのオープンを予定しております。工事費でございますが、約3,200万円ほど、これにつきましては予定どおりの整備が進められたというふうには思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） そこで、新年度、小久慈学童に対しての予算といいますか、計画としての状況を説明してもらいたいと思ひます。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 新年度予算での小久慈学童の予算措置ということだと思いますが、新年度当初予算では予算はついておりません。というのは、平成27年、長内学童は50人の定員に対して61人の入所者があったという状況でございましたが、平成28年度、昨年は53人に減りました。また、来年度、29年度も53人の見込みでございます。当初想定したよりは、小久慈でございますが、当初予定したよりは入所者がふえていないという状況でございますけれども、ただしかし、1人当たりの面積は、依然として厳しい状況でございます。優先度も高いというふうには思っておりますので、緊急性、あるいは財政状況等も勘案しながら、補正で対応できるのであれば、そういうふうなことも視野に入れながら検討してまいりたいというふうには思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 今の時点では、小久慈学童に関しての人数が減ったということで、予算を取らなかったというこの解釈でよろしいんでしょうか。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 当初予定したよりはふえていないという状況でございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 実は、2月の28日に小久慈学童のほうに寄らせてもらいました。そして、指導員の方ともお話をさせてもらいまして、いろいろとご意見を伺ったところであります。

まず、私が初めて寄らせてもらったんですが、学校から学童までの距離なんですけど、道路を渡っていくわけですけども、岩泉線との中で、かなりダンプの往来が激しい中で子供を誘導していくというふうなことで、指導員の方々がついて、学童まで案内してるというふうな話やら、そして、施設の中では障害を持った子もいるというようなことで、その部屋が小さいために、何としても増設をお願いしたいというふうなことで、市長交渉もあったわけで、私も参加をさせてもらったわけですが、みずから図面を出してお願いをしているというふうな話も聞いてたものですから、今年度の予算の中で対応してくれるんだというふうな思いで話を聞いてたわけですけども、今人数が減ってるというふうなことで予算を取らなかったというふうなことでは、ちょっと戸惑いを隠せないというのが本音なんですけど、再度聞かせていただきたいなと思います。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 小久慈学童につきましては、以前からお答えしておりましたとおり、長内学童に次いで、かなり手狭だという話がありました。29年度予算の検討も指示をいたしましたけど、入所希望者が減ってるという話もありましたし、従来ですと、用地を新たに隣接に取得して、しっかり建物を建てるということで、私は話を聞いておりましたけども、そこまでやらなくても、土地はお借りして、ある程度のプレハブでもあれば対応できるんじゃないかという話も出てまいりましたので、ちょっとそれは今のお話とちょっと違うのもありますけども、従来から私が聞いておりました話と、ちょっと状況が変わってるということがありましたので、もっとやっぱり再度、現場の皆さんとしっかり話を聞いた、調整した上で何が必要なのかということを検討する必要があるということ、当初予算には盛りなかつたものでございますので、そのところである程度のを、例えばプレハブでもということであれば、それは補正でも考えていきたいというふうに思っている状況でございます。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） そういうことであれば理解を

しますけれども、去年、おとしの暮れからの長内学童の次は小久慈学童というふうに言われているものだったから、指導員に現場サイドにはその旨、話をしてたわけですけども、今年度に対しての予算がついてない、そういう状況の中で現場サイドには話をしてるのか、連携がとれているのか、その辺をお尋ねします。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 現場サイドに対して予算がついていないということを報告しているのかというご質問でございますが、そもそもいつ整備するかというお話もしておりませんので、そういうふうなお話をする状況になっていないということでご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） そうしますと、確認をしますが、つくるといふことじゃなくて、そもそも白紙状態だから話をしてないんだという、そういう解釈でしょうか。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 緊急性があるということで、これまで答弁をしまいいりましたので、先ほど私がお話ししたような、例えば借地でもプレハブでもというのも、現場からもそういう話があるということですので、話はしていますが、議員がお聞きになった方とそこら辺が情報がうまく伝わってない可能性もありますので、改めて担当のほうを現場に向いて、どういう施設にすべきか、あり方はどうすべきかということをやりますので、ご了解いただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） ぜひ行動に移してもらえればと思います。

続きまして、13番の（2）の①水産加工業者の加工原料不足に伴う漁船の誘致ということで、まき網というお話がありました。漁協さんとの連携の中で、まき網船の誘致を進めていくということでありましたけれども、具体的にどちらのほうからの誘致を考えているのか、お聞きいたします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 水産振興にかかわりましての、まき網船団等の誘致というところで、具体

にどちらかということですが、久慈市漁協さんのほうからは、鮎子のほうをターゲットとしているというふうに向っているところでございます。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 新聞等で報道になっておりますけれども、八戸の施設、ハサップ型の施設が使われてないというふうなことで大分混乱をしているという報道があったわけでありまして、そして、今産地間の、産地市場の外来船の誘致というふうなことで、活発に誘致活動をされているような状況も伺うわけでありまして、久慈市としまして、昨年の水揚げが25%減というふうな中で、果たしてそのまき網船、鮎子方面に行つての誘致活動をする中で、1隻でも入ってくるような施策があるのかお尋ねします。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 実績が伴うかというふうなお尋ねだと思いましたが、いずれ実績が伴うように、我々とすればしっかりと連携し、取り組んでいきたいと思っておりますし、あと現在、鮎子ということですが、これはまき網ということでございまして、それ以外にもこれまでもイカとか、あるいは宮古、釜石方面からのトロール等の誘致についても取り組んでおりますので、これについても引き続きしっかりと取り組みながら、1隻でも多く久慈港に水揚げしていただけるように進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） 漁協さんとの連携の中で誘致を活発に進めていくという話でありますけれども、現実として、加工業者の方々が、その巻き網船に対しての思いというものがあるのか、その辺も聞いていることであれば、お伺いしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 加工業者の部分でございまして、まさに今現在、加工原料が不足しているというふうなことで、久慈市冷凍水産加工業マルスイにつきましても、その原料となるサバを鮎子方面から入れているというふうな現状もあるというふうなことも伺っております。

ということで、その誘致活動について、その加工業者も連携するような形で取り組めるかどうかということ

ころについても、今現在、協議しているところでございます。いずれ加工業者の思いをしっかりと受けとめながら進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 9番二子賢一君。

○9番（二子賢一君） このまき網船ということにつきましては、1艘当たりの搬入数量というのは100トン、200トンというものが入ってくるわけでありまして、そして、その水揚げした後の氷、これは80トンから100トンのものを積んでいくということも伺っているわけでありまして。そしてまた、資材関係、あるいは運送業務の方々が1隻入ることによって大きな動きが出てくるというふうなことで、加工業者のみならず、運送業務、あるいは資材、調味料、数多くの方々の普及効果というものが大になっていくものだろうと思っております。ぜひ今年度の実績、入港できるように最大限の努力をしていただきたいなと思って、関連質問を終わらせてもらいます。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 創政・公明クラブ、代表質問いたしました桑田議員の一般質問に、何点か関連質問をさせていただきます。

まず初めに、順番項目、順番、行ったり来たりしますが、14番、台風第10号被害の復旧状況についての②になります。28年度中は、中の橋から上の橋上流、今土砂撤去をしているわけですが、29年度、または30年度の撤去作業は随時なるのかをお尋ねいたします。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 答えからだけ言いますと、継続して実施するというふうに向っております。ただ、どの場所をどのぐらいというのは、道があったり、これからの調査もあるということで、まだ具体的に県から示されていないところですので、ちょっと明言できないところでございます。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 今答弁では、順次して行く予定だということで安心しました。

というのは、きょうの岩手日報では、県の事業として、川口に消波ブロックを据えつけて、海側からの土砂で閉塞する状況をできるだけ排除するような記事でした。そうすると、中心市街地のところだけ土砂を取って、出口も取って、その出口までの間が撤去になら

ないというのは、また被害が出るというのは誰でもわかると思いますので、ぜひあわせて、出口のその流れに沿っても、ぜひ土砂の撤去を強く要望してほしいなと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

あと6番の大学・専門学校の誘致ですけども、先ほど市長はこの地域は介護の専門学校が必要があるから適してんじゃないかということでありますけども、さすがに大学・専門学校となりますといろいろなハードルがあるやに私も思います。

そこで、岩手大学とも久慈市は提携をやっているとします。いずれその大学の教授、准教授の方々の分室とかサテライト方式で教室を開いてもらうとか私はそういう考え方もいいと思うんですが、考え方お願いします。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 今岩大との提携で、いろいろサテライト的な部分のお話がありました。今年度から、岩大のほうですと水産学系が創設になりまして、そのの学生さんたちは残念ながら釜石市のサテライトのほうでも活動してるというなお話を聞いております。

今回、せっかくの水産学部のそういう部分でできませんでしたが、いろいろな部分でサテライトでもいいから何か久慈のほうでも提携の上で大学の活動、そういう場ができればと思ってましたんで、ここの点につきましてはいろいろ検討してまいりたいと考えております。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 研究して検討してもらいたいと思います。久慈市には、さかなクンという大学生なのが准教授だったと思うんですが、水産関係の准教授でありますので、やっぱり久慈市とつながりのある方をぜひ呼んで、隣の長内校舎というのは日中空いてると思いますので、そういう金のかからない久慈市のつながりのある准教授をやっぱり呼んで、若い人たちに久慈市に来てもらって消費、交流人口をふやしていくべきだと思いますので、そういう取り組みもぜひお願いをしたいなと思っております。

項目の2番に入ります。先ほど行財政改革については、市長から答弁がありました。

その中で、総合政策部長がお話になりましたけども、

先ほども午前中もありましたが小中学校の適正配置、これが一番の行政改革につながると思います。多分これは一番厳しい、地域の方々、PTAの方々、あと児童生徒のことを一番に考えるという教育長の話です。

多分一番難しいと思ってんですが、隣の洋野町はこれやってたんですね。合併後にこれが進んで行革になってんですよ。このことによって財政状況も良くなってんですよ。そういうのの認識とか考え方を伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） 財政状況をよくするためにそういった改革が必要でないかということでございますが、そういった小中学校の適正配置といいますかそういった統廃合等も含めまして、そのほかに久慈市で持っているいろいろな施設等もあるわけでございます。そういったものも含めての統廃合というのは、やはり必要になってくると思います。

やはり施設がいっぱいあるということは、そこには人員配置も必要ですし、維持管理費も必要になってくると。そういったところで効率を図っていくという点では、財政状況には大きく影響してくるものだというふうに考えます。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 行政改革はいずれ何かを評価をして、久慈市が持つてる財産をどこかの時点というか、今やらなければならない時点だと思うんですが、それをやっぱり適正に評価をしてどうしても切らなければならないのと、金をつぎ込むことというのはおのずと変わってきて当たり前なんですが、ここに一般会計予算の概要の記者会見の資料があります。

この中には、概要に予算というか、ことしの225億が肥大化の状況だって書いてます。それは、皆さんの資料を見れば手元の資料にもちゃんと記者会見資料があるわけですけども、肥大化になる前に市長が就任当初は一律5%の予算を削っていったのが事実だと思うんですが、そういう何というんですか評価をして、ならこの肥大化をさせないために何か切ったとか、行革の中で、削減したとかというのはどこなのか教えてください。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤謙一君） 先日の29年度の一般会計の記

者会見資料でございますけども、このくだりは東日本大震災に加え、昨年の台風10号に係る復旧復興関連事業費により予算の肥大化が継続している状況にあるものと考えておりますというふうなくだりですので、台風10号のこともしっかり認識いただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） それをわかっていて何かを、評価が低いのを切ったかって話を尋ねてました。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 例えば、市の単独の道路経費、それらについてはゼロ査定しております。それから、各種の補助金についても5%カットしたところもございますし、さまざまな面で市の一般単独でできる分、それらについてはゼロ査定にしたところでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 今副市長がお答えしたとおりでございますが、実は予算査定の前段として、政策推進会議というのをことししっかりと対応いたしました。

ほぼ全課にまたがってのいろいろな事業を出していただいて、それを何日もかけて一つ一つ検証しました。その結果、実際の検討は、ことしは全事業をローリングをしたんですが、大きな主要な事業について、時間の関係もありますのでやりましたけども、実施53、一部実施2、縮小30、終期設定7、廃止16、そのほか一部廃止1、継続検討18、統合1というような形で、現実的には政策推進会議の中ですと事業費としますと、今副市長が言いました道路、新年度はほとんど普通建設工事等は削減したところでございますが、事業費としますとその時点ですと12億638万円、それから一般財源で申しますと3億7,800万ほどの削減を実施しております。それをもとに予算査定になったという形になります。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 今いろいろな削減をしたという話ですが、28年度からすると10億7,000万多い予算案ですね。そうすると、なかなか評価をして切ったかっていうのはなかなかここで見えてこないですよ。

何が一番久慈市としてだめな方向に向かってんじゃないかというような、登壇した桑田議員もお話をして

ますが、再建団体になってはだめなわけですけども、その割に前年度比10億も膨らんでる。そしてそれが財源確保が一段と厳しいというのが予想される中で、というのはちょっと私はなかなか理解しないんですけども、いずれにしてもそういう評価をして財源を、予算を、事業を見ていく必要が私はあると思います。

いずれ、限りなくだめになるような方向に行ってもらっては私も困るし、市民の皆さんも困ると思いますし、職員の皆さんも困ると思いますので、いずれそういう状況にならないようにぜひ日夜努力してほしいなと思います。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） どういうことがだめな方向に向かっているのかというのは私さっぱりわかりませんが、今担当部長のほうからも詳しく説明申し上げましたが、いろんなことでもって軽減して自主財源の確保に努めてるわけです。

そして今は、市長からも申し上げましたが、台風10号それから震災復興の復旧事業を全力で取り組むんだということでございますので、当然にその分の経費は通常ベースよりも大きな金額が必要になるということでございますのでご理解願います。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） だめな方向というのは、先ほども言いましたが再建団体にならないようにという意味です。それでいいです。だから努力してほしいと言っていました。

次に移ります。13番の3（3）です。先ほど、市長は答弁でことしの前夜祭も駅前広場を予定しているところ

〔発言する者あり〕

○議長（中平浩志君） 下川原議員、先ほどの答弁だとこれから実行委員会という話はしてましたので、その辺を踏まえて質問してください。10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 訂正します。いずれ私は、この秋まつりの前夜祭会場については、街なかのにぎわい等々を考えると駅前だと私は思っております。ただし、ここに前夜祭だけで何万人の方が来ているわけですけども、今の駅前ビルの状況は崩落が前より大きくなりました。

そこで、万が一ことし実行委員会がぜひ駅前でやり



たいとなった場合の安全策についてお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 駅前ビルの話でございますが、駅前ビルは市の財産でございませんので市が管理するという事はない。それは持ち主が安全管理に努めるのが基本だと、そういうふうに思っております。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 今の副市長の答弁だかもしれませんが、この秋まつり実行委員会の中には市の係もあります。入ってるはずで。責任はゼロではないと思うし、その安全策をとるのかお願いをするのかというのはどういうふうに考えてますか。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 市が安全策をお願いするんですか。そういう考え方はないと思いますが。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） いずれ危険な状況は私はよくないと思います。よくない状況だと思いますので、ならどう思いますか。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 危険な状況かどうかというのは、それは建築主事が判断して指導してると思いますので、それは持ち主がきちんと管理すべき問題だと。それをいちいち市が、危険な建物について全部市がやっていくという事はあり得ない、そういうふうに考えてます。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。

○10番（下川原光昭君） 市が全部やれと私言ってます。指導もできるわけですよ。危険な状況を回避するための指導はできると思うんですがそれも無理ですか。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） それは県の振興局の建築主事と一緒に、土木のほうでも指導してるということでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 10番下川原光昭君。時間がないので簡潔に。

○10番（下川原光昭君） 以上で私の、時間がありませんので、これで終わります。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） それでは、創政・公明クラブ桑田議員の質問に対して関連質問いたします。

まず初めに、10番の在宅介護者の支援についてでありますけれども、先ほど答弁でありましたように、在宅介護の家族、介護してる方にとっては大変重要な大きな苦勞があると思います。

その中で、先ほどの答弁ですと心身の、心のケアと申しますか、そういう部分についてはやられているようですが、中には介護するために職場をやめなきゃならないという部分もあるような感じなんですけど、そういう面で財政的な支援というのはどのようになってるのか、その辺についてお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） いわゆる介護離職によって経済的に困窮するという事で、その財政的な支援というふうなご質問だというふうにつまえました。現在市ではそういうふうな支援ができていない状況でございますが、これにつきましては国のほうでも介護離職の問題は重要な問題というふうに考えているようでございますので、今、国段階でどういうふうな支援ができるのかについて、調査検討してる段階だというふうに認識しております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 以前だったか、県のほうで介護従事者に対して幾らか支援してる部分というのは私あったような記憶があるんですが、そういう支援策というのは多分年間で幾らかというような支援があったような気がしたんですが、今のところはそういうのは、県のほうでも国でもありませんか。その辺についてはどうですか。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） ただいまの件につきましてはちょっと、今資料を取り寄せてご答弁させていただきます。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） それでは、今資料がないということでその点については後でまたいいかと思いますが、その次に、14番の②の治水工事に関してですが、実は今上の橋からですか、上流は県のほうが今河道を掘削をして、大川目のほうでも三日町橋から下流のほうは流木とか立木を切ったようなんですが、その上流

のほうで、岩井橋付近からずっと森地区にかけての河川が非常に高くなったんですね、河床が。

皆さん、実は今あそこがちょうど改良区のほうで久慈川のほうで工事してまして、その影響があるかないかちょっとわからないのですが、実際前に比べると2メートルぐらいは河道が、土砂が堆積して、もうあそこは砂利ですけど、道路から河川まで本当に浅くなったような感じがあります。その点について、県のほうというか、どのようにやってくるのか、その辺についておわかりであればお願いします。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 大川目三日町橋上流の河道の土砂堆積についてのご質問でございますけれども、先ほども申しましたけども引き続き市内河川について掘削はしていくと、29年度も継続してやるということでございますけれども、場所とか方法については明確にされておられません。

それで、ただ県のほうで言ってるのは台風10号のような災害を、被害を繰り返さないように、いずれ整理したいというふうなことを伺ってるところでございます。

○議長（中平浩志君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 先ほど答弁を保留しておりました在宅介護者への支援ということでございますが、久慈市の制度でございますが、家族介護慰労金支給事業というのがございます。

これは、要介護4または5の要介護者を在宅で介護してる家族、この方は市町村民税非課税ということでございますが、過去1年間に介護サービスを利用していなかった場合に慰労金を10万円支給しております。ただ最近はその該当者がいないという状況でございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 今福祉部長から答弁がありましたけれども、今現在はそういった対象者がいないということですが、中には相談もできないというか、そういった制度があるかないかがわからない方もあるんじゃないかなと思いますので、そういった制度があるのであれば広く相談受けたときにいろんな制度を教えてあげればいいなと思いますので、その辺についても今後頑張っていただければと思います。

それから、今久慈川の上流のお話ですが、実際的に

きのう城内さんから話があったように、市の方もそういった災害状況の中には見ていただけるかと思うんですが、やはり現場を直接見てこの辺はもし今度大きな災害あったときにはまたここも大変だなというのはわかるかと思っておりますので、ぜひそういった形で見ていただければと思います。

次に、(3)のほうですが、281号の旧道のことなんですが、実は今鏡岩といいますか不老泉のところは市道になってるわけですが、今全然もう堆積の砂があったり、また旧東屋があったところにもうそのまま道路に、東屋の屋根があるというような状況です。

トイレなんかでも砂が入って全然使える状況にないようですが、そういった、あそこは観光地ですのでそういったものはどのように今後やっていくのか、わかればお示し願います。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 久慈溪流沿いの鏡岩園地付近の復旧に関してのお尋ねでございます。

あそこは現在市道というふうなことで、道路につきましては管理されているわけですが、道路それから鏡岩園地全体がああいう形で被災しているということで、今復旧につきましては道路と一体的に工事をする必要があるということで、建設部のほうと連携して進めているところでございますが、道路復旧につきましてもやはり生活に直結する部分を優先しているというふうなことで、現状まだ手がついてない状況でございますが、新年度の早い段階で取り組めるように進めてまいりたいというふうに思っております。その公園部分につきましても、復旧ということで進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） あそこはもう最適な久慈溪流の景勝地ということで、実際不老泉は今も水をくみに来てる方もいらっしゃいます。大変歩道なんかも掘れてるというか、そういう状況になってますので仮復旧もできるのであれば、今のところまるっきり手がつけてない状況ですので、その辺についても早急に対策をしていただければと思います。

それから、16番の久慈川の堤防の未整備区間の件ですが、実は台風10号の、議員の委員会の合同調査の中でたまたまその辺行ったんですが、前は、今そういっ

た添田塗装のあたりで、会社のあたりが未整備になってるんですが、その持ち主の地主がかわったような話を聞いたんですが、それでここは県の要望事項でもあるわけですが、そういった地主の変更によって工事もスムーズに行くのではないかなというふうに予測をするんですが、その辺についてもしおわかりであればお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 大成橋上流岸の無堤区間の整備でございますけれども、県のほうにこちらも問い合わせまして、治水対策を検討したいということで回答いただいておりますので、ぜひ具体的に堤防を盛るとかという話は出てこなかったんですが、私なりにはそのいうことだろうと解釈しておりますし、これまでもずっと重点事項で要望してきたところでございますので、何とか実現するように引き続き要望を協議してまいりたいと思います。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） あの辺は大雨のたびに近くの住宅は浸水するという部分でありますので、早急に県の要望事項でもありますので、そういった地権者も変わったようですのでその辺もしっかりと連携して早期に整備できるようにお願いしたいと思います。

それから教育委員会のほうですが、子供の肥満についてお伺いいたします。

先ほど全国平均が8%というなかで、久慈市は10.79ということで岩手県よりは幾らかはいいようですが、先ほど答弁ですと休み時間のマラソンとか、あと食育が非常に大切だろうというふうな答弁がありました。私もまさにそのとおりだと思うんですが、実際は今子供たちが一番いいのは、早寝早起き朝ごはんというこういったリズムをしっかりとつくればやはり体というのはそういうふうになっていくのかなという思いがあるわけですが、なかなか家庭の共働きとかいろんな面で朝食しない子も結構あるように思います。

そういった面では、食育というのはすごく大事になってくるわけですが、給食だとある程度バランスとって食べてるわけですが、そのほかの朝晩についてはなかなか、結構惣菜とか手づくりじゃないものを結構食べさせる傾向というのが今若い人にはあるように聞いてます。その辺でやはり、その親に対しても食育というのが非常に大事になってくるのではないかなと

思いますので、その辺の考え方についてお伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 肥満につきましては当市の課題でございまして、岩手県の平均よりも高いというのが実態でございます。肥満の原因というのは、今お話ありました食べ物、それから生活習慣、さらには運動の環境、そして遺伝もあろうかなというふうに思います。

全国平均は8%でございますので、ある程度の肥満の子供が出るのは遺伝等の関係、体質もあるでしょうから、やむを得ない部分もあろうかと思いますが、やっぱり10%を超える状況というのは多いというふうに思っております。

その中で食育、あるいは何を食べるかということで、これ非常に、あるいは生活習慣大事だと思っておりますので、学校では保護者に対してPTA等でお話したり、あるいはいろんな学校から情報も出しますが、広報とか学校通信といってますがそれに掲載したり、さらにもう今学校では個別の指導もしてるんですね。

一人一人の子供の体重等も定期的に量ったり、親と面談したりそういうこともしておりますが、なかなか成果が上がってないのが実態でございます。いずれ教育委員会といたしましても、教育委員会だけではなく関係部局と連携しながら取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） 取り組みのほうはよくわかりました。やはり子供たちが好き嫌いというのも結構あるようで、どこかの自治体では親子で一緒にお弁当を作って食べる。料理しながらおいしく野菜を食べる。嫌いなものあるかもしれませんが、そういったものについて子供はやっぱり弁当給食というものをやって、実際はひと月に一遍でも弁当給食の中で親子で弁当つくって食べようというそういった取り組みもしてる部分もあるようです。

やはりそういった部分、今小学校でも食育に関してはいろんなところで、学校で野菜植えたりとか、それをとって食事したりしてるかと思うんですが、やはり料理をしながらおいしく食べさせるというそういった部分も大切じゃないかなと思いますが、その辺について

はどういうふうにお考えですか。お伺いいたします。

○議長（中平浩志君） 加藤教育長。

○教育長（加藤春男君） 昼食については子供たちは給食を食べてるわけですけども、これが非常に栄養バランスよくて、しかもおいしいという評判で、私も年に何度か子供たちと給食を食べてるんですが、ほとんど残さないで食べておりますし、子供たちに食事をしながら聞きますと、ほとんど残さないで食べてというふうに話しております。

こういうふうな食事の内容というのは、ぜひ家へ帰ってお母さんにも話して、一緒につくってこういう栄養バランスのいいものを食べようよという話もしてるんですが、今お話のありました弁当、弁当を通じて家庭でも栄養バランスのとれた食べ物について勉強してもらおうと、あるいは研究してもらおうということ、これは一つの方法であろうかと思っておりますので、今後関係の方々、あるいは学校等の意見を聞きながら検討してまいりたいというふうに思います。

以上です。

○議長（中平浩志君） 18番山口健一君。

○18番（山口健一君） ありがとうございます。ぜひそのように取り組んでいただきたいと思います。

時間もないので私もこれで終わります。先ほどありましたように、東日本大震災から6年ということで、また今年の台風10号の被害ということで、今年度退職する方々は本当に苦労なされたかと思いますが、今後またいろんな面で活躍できることをご期待しながら、関連質問を終わります。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 創政・公明クラブの桑田議員の代表質問に関連いたしまして、二、三お尋ねしたいと思います。よろしくお伺いいたします。

3番目の震災経験を生かした防災減災の取り組みについてでありますけども、ちょうどこの11日で東日本大震災津波から6年が過ぎ去ろうとしておりますが、当時その各被災地を回らせていただいて検証させていただきまして、つくづく感じたのは、コミュニティという非常に横のつながりの強いところほど、被害が少なかったということを実感をしたところでありますが、そういったものを忘れないためにも防災訓練等で対応して避難訓練等を行っておると思っておりますが、その状況はどういうものか

ということをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（中平浩志君） 澤里総務部長。

○総務部長（澤里充男君） 津波避難訓練の状況ということでございます。これにつきましては、議員ご案内のとおり毎年6月に避難訓練をしている状況でございます。それで、参加人員についてはほぼ横ばいといえますか、若干減少はありつつも横ばいの状況でございます。

ということで、いろいろな展開といえますか、そういった訓練に参加をしていただくためにいろいろな、例えば小学校の避難訓練を同じ日にやってもらうとか、あと保育園の避難訓練をやってもらうとか、いろいろなところに各団体等には声がけをしながら開催している状況でございます。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 参加等をしていただくということで非常に苦労してんじゃないかと思うわけですが、人間というのは私もそうでありますが、大変つらいこととか大変苦しいことというのは忘れようとするように人の体というのはできておるんだそうでございます。ましてや震災のあの悲惨な状態では、どっかで自分の体の中には忘れ去ろうという気が働いて、そういうふうなそれが人間なんだそうですが、いずれそれを忘れないように語り継いだり、またさまざまな無駄なようなモニュメントを残したり、そういうふうな形でこの震災に対応していかなければならないと。こういうことは皆さん自覚しておるところであると思っております。

いずれ皆さんに避難訓練等で足を運んだり協力していただくように、これは当局大変ご苦労ですが、努力をしていただきたいとこのように思うところであります。その点、ひとつコメント、お考えを伺いたいと思います。

○議長（中平浩志君） 遠藤市長。

○市長（遠藤譲一君） ただいま議員ご指摘の点は、非常に重要だというふう感じております。市といたしましても、災害に備える、次に備えるということで、市民の皆様にもしっかりとお声がけもしてまいります。各町内自主防災組織でも独自に避難訓練等もやっているところもありますので、ぜひそういった取り組みもお願いをしたいと思っております。

やはり年1回の避難訓練で、しかも参加される方が

必ずしも多くないという状況にありますので、これはこれで参加者をぜひふやすように工夫しなければいけないということで取り組んでおりますが、それぞれの地域、それぞれの町内会で、いざとなったときに自分たちの命をどう守るかということについては、しっかりとそれぞれでも取り組みもお願いしたいなど。

やはり避難場所はどこなのか、この前のように河川が増水した場合と津波が出た場合、津波が全く関係ない地域もありますし、河川から離れてるところもありそれぞれの状況がありますので、そういった各地区の取り組みをぜひお願いしたい。そういう呼びかけもしっかりとさせていただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） それでは7番の自然エネルギーについて、民間事業費による風力発電の営業活動についてちょっとお伺いいたしますが、まさに震災後、この自然エネルギーをということではいろんな動きをして何とか普及しようとして努力されたようですが、なかなか久慈市の場合、契約したけども契約不履行になった、だめになったとかそういう形で、なかなかこの自然エネルギーそのものが定着しなかったわけでありませぬ、太陽光にしても風力にしても。

これは、よく聞くのは高压線とか送電線が容量が非常に少ないために、まとまった自然エネルギーはなかなかつくれないというお話でございましたが、そういう原因だと私も記憶しておりますがそれでよろしいのかどうか。もしわかればこれからもやっぱりこの自然エネルギーというのは可能性が非常に薄いのかどうか、ちょっと伺いたいと思います。

○議長（中平浩志君） 川合港湾・エネルギー推進担当部長。

○総合政策部付部長（川合政伸君） さきに佐々木議員のほうにもお話しましたとおり、この原因というのがやはり送電網が容量が足りないというところでございまして、事業に乗り出してきて興味を示しているところであっても、その採算性がとれないというところで実施を見送っているというような状況でございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） ちょっと行ったり来たりで恐縮ですが、1番のほうの国内の友好都市協定についてちょっとお伺いしたいと思います。市長答弁では小

千谷、小金井というお話を伺いました。まさに小千谷にしても小金井にしても、何とかこのつながりをつけて友好都市にしたいという思いが私も強いわけですが、これはもう少し、これはどの辺まで進んでいるのかちょっとお知らせいただきたいと思います。

○議長（中平浩志君） 一田総合政策部長。

○総合政策部長（一田昭彦君） 小千谷、小金井市のほうにつきましては、まず防災協定を結んだというところございまして、今後民間レベル、それから行政間での相互交流を拡大充実させて、市民の機運の醸成ですか、そういうのを図っていきながら、やがてその次の段階へと行ければと考えております。

以上です。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 小金井の場合は桜まつりはまだ継続して、久慈から物産といういろいろな物を持ってそこで商売したりして、交流したりしているのでしょうか。ちょっと伺います。

○議長（中平浩志君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 小金井市との交流でございまして、こちらにつきましては、観光物産協会のほうが窓口となっております。春の桜まつり、そして秋のお月見まつりというふうなことで、当市から物産、それから人員まで向いてまつり、イベントに参加し、そしてまたそこで会場にいらした方から義援金等を募った形で、市のほうに一部返していただいているというふうな交流が続いております。

以上でございます。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） それで、じゃあ小千谷のほうはどうですかね、この経過から言えば小千谷というはもともとは長島村長さんの山古志村から始まって、それが合併して山古志村が小千谷市とそれから長岡市の半分ずつに村が分かれて合併した経緯があつて、そもそもが闘牛ですか、そっちのほうでのつながりですと旧山形村から関係を深くしておったわけですが、そことの関係はどのような形で進んでおるのか、ちょっとわかればもう少し詳しく教えていただきたいんですが。

○議長（中平浩志君） 中居副市長。

○副市長（中居正剛君） 台風10号の被害あったときに、すぐ小千谷市長さんがお見舞いに見えられました。

義援金を持って、お見舞金持っておいでいただきました。

そして、早速小千谷市の職員を2名その災害復旧のために派遣していただいて、今一人まだ今月いっぱいまで残っておりますが、そういう形でご支援をいただいております。そして今後は、市長もこの前小千谷市長さんのほうに表敬訪問させていただいております。

先ほど担当部長からもお話し上げましたが、まずは今災害協定のほうでいろいろ支援する、そういう状況を積み重ねながら、今後友好都市になっていければいいなと、そういうふうを考えているところでございます。

以上です。

○議長（中平浩志君） 20番下館祥二君。

○20番（下館祥二君） 友好都市として非常にこれからも大事に取り扱いというか、おつき合いをしていただいて、実にしていただきたいと、花を咲かせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上で私からの関連質問終わります。

○議長（中平浩志君） 再質問、関連質問を打ち切ります。

この際、暫時休憩いたします。再開は午後3時15分といたします。

午後3時02分 休憩

午後3時15分 再開

○副議長（桑田鉄男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続します。

次に、社会民主党豊巻直子さん。

〔社会民主党豊巻直子君登壇〕

○1番（豊巻直子君） 社会民主党の豊巻直子です。

きょうは3月8日です。国際女性デーの日です。女性の権利と平等のために戦う記念日として、経済的安定をあらわすパンと女性の尊厳の確保を目指すバラをシンボルに、世界各国でさまざまな行動が行われております。

岩手の集会は3月5日に行われました。そこに、北上に住んでいらっしゃるお母さんが、折り紙で、手づくりでバラをつくって、みんなの分200個、つくって持ってきてくださいました。きょうはこれをつけて質問したいと思います。

さて、久慈市長は2月22日に行われた男女共同参画の学習会の場で、育ボス宣言をなさいました。遠藤市長が男性、女性ともに働きやすい、子育てしやすい久慈市を目指して行動されていることに敬意を表します。

また、福祉の村の公園には、新しい柵がつくられました。福祉の村と、それから防災公園、あそこを結ぶ道路がすぐ脇に通っておりますので、柵がないと危ないというお話をしましたところ、柵がつくれ、子どもたちも安心して遊べる環境ができたと思います。

それでは、質問に入らせていただきます。

1番目は、駅前複合施設整備についてです。

①として計画の進捗状況及び完成予定時期を教えてください。

②として、生徒が列車を待つ時間などに学習できるスペースが確保されるのか、教えてください。

2つ目は、子どもの貧困についてです。

①です。子どもの貧困の現状についての把握方法と支援策、久慈市の状況をどのようにとらえているのか、教えてください。

②として、子どもの貧困は保護者の貧困でもあると思うのですが、保護者へのどのような支援を行っているのか教えてください。

3つ目は、障がい者支援についてです。

障害がある子どもたちが、学校卒業後、集まって、体を動かす機会が少ないと思います。スポーツ交流会など、楽しく過ごす機会が必要と思いますが、いかがでしょうか。教えてください。

4番目です。子育て支援施策について。

①親が病気のときなど、市内に予約なしでも、急な託児に対応してくれる場所があるか、教えてください。

②です。子育て中の母親が息抜きやちょっとした用足しの間などに利用できる短時間の家事代行サービスがあるか、教えてください。

5つ目です。災害に強いまちづくりについて。

①現在、久慈川の改修工事が行われておりますが、上の橋より上流及び中の橋より下流の改修予定を教えてください。

②久慈川の河川敷には、テニスコートのほか、市有地を利用した畑や耕作物があるとも聞いておりますが、大雨災害時に、河川の流れの支障となる恐れがあると思います。災害から市民の命と財産を守るためにそれらをどのように取り扱うのか、考えを教えてください。

③です。岩泉町でも話題となっていますけれども、被災した個人所有の橋の復旧方法を教えてください。

6番目です。駅前地下道の改修についてです。

天井のはく離や床タイルの浮き、照明も破損して薄暗く、危険な状態です。観光の玄関口でもあり、早急な改修が必要と思うが、どうでしょうか。

7番目です。小学校の遊具についてです。

今年度は、大川目小学校と久慈湊小学校に遊具が整備されました。次の年度、新しい年度はどちらの学校に整備予定か、教えてください。

8番目です。入学準備金について。

就学援助制度のうち、入学準備金は早めの支給が必要と思うが、対象と支給時期を教えてください。

9番目です。久慈市教育委員会衛生委員会について。

①時間外勤務80時間以上と100時間以上の教職員の数を教えてください。

②過労死基準である時間外勤務80時間を超えるような働き方をどのように是正していくのか、教えてください。

③2月に開催された久慈市教育委員会衛生委員会において出された意見の内容を教えてください。

④今年度の衛生委員会は1回しか開かれておりません。年度初めに1回、学期ごとに1回など、複数回の開催が望ましいと考えますが、いかがでしょうか。

⑤労働安全衛生法には、産業医の職場巡視が規定されています。他市町村の教育委員会では、産業医とともに職場巡視をしており、久慈市でも行う必要があると考えますが、いかがでしょうか。

⑥労働安全衛生法の理解が進んでいない実態も見受けられます。学習する機会も必要と思いますが、お考えをお聞かせください。

以上、登壇しての質問になります。ありがとうございました。

○副議長（桑田鉄男君） 遠藤市長。

〔市長遠藤譲一君登壇〕

○市長（遠藤譲一君） 社会民主党豊巻直子議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、駅前複合施設整備についてお答えをいたします。

まず、計画の進捗状況についてですが、今年度は用地補償に伴う不動産鑑定及び建物等の補償費算定業務を行い、地権者との交渉を進めているほか、敷

地造成や敷地内にある市道のつけかえ工事、駅前交通広場工事に係る設計業務を進めているところであります。

なお、敷地内にある旧物産市場につきましては、株式会社久慈物産市場から無償譲渡を受け、本年4月には解体工事に着手する予定としております。

また、複合施設の完成予定時期につきましては、台風第10号被害による設計業務のおくれなどが影響し、当初予定していた平成30年度末の完成は困難な状況にあり、平成31年度となる見通しであります。

次に、列車の待ち時間などでの学習スペースの確保についてですが、図書館を中心とした施設構成であること、及び駅前という立地特性を考慮し、交通機関利用者等の待合スペースを設置するほか、図書館本体にも、生徒同士が話し合いながら学習できる空間と、静かに集中して学習できる空間の双方を確保したいと考えており、来年度実施する建築設計において、さらに検討を進めてまいります。

次に、子供の貧困についてお答えをいたします。

子供の貧困の現状についてですが、最新の国民生活基礎調査によると、子供の貧困率は、平成24年で16.3%と、子供の約6人に1人が貧困状態にあると言われております。

貧困率の算出方法については非常に複雑であることから、子供の貧困について、市独自の調査は行っておりませんが、平成28年11月時点の生活保護の保護率は、久慈市は1.16%、岩手県は1.06%、全国では1.69%となっており、子供の貧困の状況につきましても、国の調査と同程度と考えております。

子供の貧困対策といたしましては、子育て世帯への経済的支援として児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当の給付や就学援助、中学生までの子供と一人親家庭に対する医療費助成を行っております。

さらに、一人親家庭の親に対しましては、就業やキャリアアップに必要な技能や資格習得の支援策として、各種訓練給付金事業を実施しているところであります。

次に、障がい者支援についてお答えをいたします。

障害をお持ちの方が集まり体を動かすことは、心身の健康保持には重要なことであると認識をいたしております。市といたしましては、毎年、久慈地域障がい者自立支援協議会と共催により、触れ合い交流スポーツフェスタを開催しており、障害のある人もない人も、

ともに楽しめるスポーツを通じて交流を深めるとともに、障害に対する理解促進を図っております。今後におきましては、多くの方に参加をいただけるよう、内容の充実や周知方法を工夫するなど、取り組んでまいります。

また、障害をお持ちの方が、スポーツを通じて楽しく暮らせる機会をより多く提供できるよう、検討してまいります。

次に、子育て支援施策についてお答えいたします。

まず、市内の託児場所についてであります。保育所を利用していない家庭において、保護者の疾病、休養等により、一時的に保育が困難となった場合などに、乳幼児を預かる一時預かり保育につきましては、市内の各保育所で実施しております。

また、保育所以外ではNPO法人「ファミリーサポートおひさま」やNPO法人「サロンたぐきりすこやかルーム」において、乳幼児等を預かるサービスを実施しております。これらの利用に当たりましては、各保育所や施設等において、職員体制や児童数等により、受け入れの可否を判断するため、事前の申し込みを基本としているところでありますが、受け入れ体制が整っている場合には、急な託児以来にも対応可能な場合もあるとお伺いしております。

次に、短時間の家事代行サービスについてであります。用足し等の際に利用できる公的な家事代行サービスは承知していないところでありますが、一人親世帯で援助を要する場合に、保育や住居の掃除等の支援を受けることができる、岩手が実施している一人親家庭等日常生活支援事業や、病気やけが出産等で支援を要する場合に食事の支度、洗濯等のサービスを受けることができる久慈市社会福祉協議会が実施している安心サポート事業があり、それぞれ利用条件に該当すれば、家事支援を利用できるものであります。

次に、災害に強いまちづくりについて、お答えいたします。

まず、久慈川の上の橋上流及び中の橋下流の改修予定についてであります。河川管理者であります県北広域振興局からは、河川管理上、必要となると認められる堆積土砂や立ち木について、順次除去に努めているとお伺いしております。

市といたしましては、今後とも、河川の適切な維持管理が図られるよう、河川管理者である県北広域振興

局に対し、引き続き要望してまいります。

次に、久慈川の河川敷にあるテニスコートのほか、市有地を利用した畑や耕作物等の取り扱いについてありますが、河川管理者である県北広域振興局からは、河川管理者の許可を受けていない、河川管理上、支障を及ぼすおそれのある耕作物や立ち木は、基本的に、設置者や土地所有者の理解を得ながら、撤去や伐採を求めていくこととしており、とお伺いしております。

市といたしましては、河川管理者である県北広域振興局に対し、河川の適切な維持管理が図られるよう、引き続き要望してまいります。

次に、被災した個人所有の橋の復旧方法についてありますが、さきの市民共同代表畑中議員にお答えいたしましたとおり、生活橋は、市民の生活再建に欠かすことのできない生活道路の一部であり、当市、宮古市及び岩泉町で組織する平成28年台風第10号豪雨災害復旧復興期成同盟会等により、国・県へ復旧の財源措置について要望を行っているところであります。

最後に、駅前地下道の改修についてお答えいたします。

当施設は建設から33年が経過し、経年劣化により損傷が進行している状況にあり、平成26年度に施設の点検、診断を実施したところであります。

現在は、通常の維持補修により対応しているところでありますが、大規模な修繕につきましては、国の補修事業の導入を視野に入れ、その他橋梁などの土木施設全体の中で時期の検討を行っているところであります。

今後におきましても、観光客を含む利用者に対して、早期に安全で快適な地下道となるよう努めてまいります。

以上で、社会民主党豊巻直子議員に対する私からの答弁を終わります。

○副議長（桑田鉄男君） 加藤教育長。

〔教育長加藤春男君登壇〕

○教育長（加藤春男君） 社会民主党豊巻直子議員のご質問にお答えをいたします。

最初に、小学校の遊具についてお答えをいたします。

新年度の整備予定であります。2校分の整備に向けて、今議会に予算を提案しているところであります。また、整備箇所につきましては、遊具が不足している学校を基本に、本年1月に実施した遊具等定期保守点



検の状況を踏まえながら、決定したいと考えております。

次に、入学準備金についてお答えをいたします。

就学援助制度の新入学児童生徒学用品費等につきましては、昨日の日本共産党久慈市議団代表小野寺議員にお答えいたしましたとおり、今年度より、中学校の新入学生徒学用品費等を繰り上げて支給することとし、2月末日に支給したところであります。対象は現小学6年生76人です。

最後に、久慈市教育委員会衛生委員会についてお答えをいたします。

まず、時間外勤務月80回以上と月100時間以上の教職員数ですが、平成29年1月における該当者はありませんでした。

次に、働き方の是正についてですが、教員が子供と向き合う時間を確保し、誇りとやりがいを持つことができる環境を確保していくことは、教育委員会としても重要な課題であるととらえております。

今年度から行っている安全衛生管理責任者への時間外勤務時間の報告内容を元に、時間外勤務の多い時期や業務内容について検討し、各学校の実情に基づいた役割分担の見直しや行事、諸会議のスリム化と校長会議や学校訪問の際に指導してまいります。

また、課題となっている中学校における部活動については、平成29年2月17日に、岩手県教育委員会が設定した基準に従って、当市においても、平日、週1日及び第2日曜日、第4日曜日を休業日とする基準を設定し、各中学校及び保護者あてに通知したところであり、徹底を図るよう指導してまいります。

あわせて、メンタルストレスチェックの実施や産業医との面談等、教職員の健康管理の面も重視してまいります。

次に、2月に開催した久慈市立小中学校衛生委員会において出された意見の内容ですが、衛生委員会の複数開催や校長等管理職の学習の場となるようにしてほしいなどの意見が出されたところであります。

次に、衛生委員会の開催回数についてですが、今後、他市の状況等を参考にしながら検討してまいります。

次に、産業医による職場巡視についてですが、当市では、労働安全衛生法の適用を受ける職員50人以上の小中学校がないところでありますが、法に準じた

衛生委員会を設置、産業医を選任し、小中学校の労働安全衛生を推進しているところであります。

産業医による職場巡視は実施していませんが、先進事例などを研究してまいります。

次に、労働安全衛生法の理解についてですが、久慈市立小中学校衛生委員会及び各小中学校の学校衛生委員会を活用し、労働安全衛生に対する理解がより深められるよう、推進してまいります。

以上で、社会民主党豊巻直子議員に対する私からの答弁を終わります。

○副議長（桑田鉄男君） 再質問を許します。1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） 1番の駅前複合施設の整備についてですが、生徒がお互いに話し合いながら学習できるスペースと、後は静かに集中して学習することができるスペースと両方あるということで、すごく考えられているんだなというふうに思いました。

さらにお聞きできれば、就学前の子供たちが、絵本の読み聞かせをしてもらったりとか、自由遊びをしながら待つスペースというのはあるのかなというのと、業者はもう決まったのであれば、それが地元の業者かどうかとも教えていただければうれしいのですが。

○副議長（桑田鉄男君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 駅前の複合施設の整備にかかわりまして、まずは内容として、幼児等が読み聞かせできるようなスペース等が確保されるかということでございます。

当然に、現状の図書館でもそういった活動はしておりまして、いずれ、既存のものについては、全て機能は持たせたいと思っておりますし、その内容につきましては、今、教育委員会も含めて検討を進めているところでございます。

それから、業者につきましては今後ということになります。現在、設計のプロポーザルというふうなことで、提案を求めている段階でございますので、まずは設計業者を選定し、設計終わった後に工事のほうに入っていくというふうな流れになるものでございます。

以上でございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

じゃあ、業者についてはこれからなんですね。そうになると、運営についても、直営かどうかというのはこ

れからわかるというふうに考えたらよろしいでしょうか。

○副議長（桑田鉄男君） 浅水産業経済部長。

○産業経済部長（浅水泰彦君） 設計業者につきましては、先ほどご答弁申し上げましたが、現在、市内の設計業者に発注しているところでございます。ということで、その中から最もいい提案ということで選定していくという考え方です。

それから、運営につきましては現在、指定管理という方向で進めているところでございます。

以上でございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

久慈市の業者が落札できれば、とても久慈市がうるおって、いい循環ができるんじゃないかなというふうに思います。

図書館が直営ではなくて指定管理者というお話だったので、そこについてはまた、違う機会にでもお話できればいいかなと思います。ありがとうございます。

2番目の子供の貧困についてなんですけれども、久慈市の具体的なデータはちょっと計算が難しく、全国の数字で言うと16.3%ということなようなんですけれども、この子は貧困であるという状態を、だれがどのように把握して、それを支援に結びつけるかというところを知りたいなと思いました。教えていただければありがたいです。

○副議長（桑田鉄男君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 子供が貧困であるかということをごどのように把握しているのかということでございますが、これにつきましては、例えば生活保護への相談とか、それから、生活保護に至る前の生活困窮者の支援ということもございまして、そういう制度でも支援もしておりますし、あと、教育委員会からの情報とか、あるいは水道事業所からの水道料の納付困難という情報は共有しながら、そのほかに、税金のほうもございまして、庁内全体で、どういう方が困っているのかということに対して、庁内全体でチームをつくって取り組んでいるというふうな状況でございます。

以上です。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） はい、ありがとうございます。

さまざまな税とか料金とかが支払われないという状

態を見て把握しているというところはわかったんですけど、例えば今、庁内というお話があったんですけど、民生委員の方とかから上がってきたり区長さん、町内会長さん、そういう方たちから情報が上がってきて支援が入るというケースは全体のどのぐらいの割合になっているのでしょうか。

○副議長（桑田鉄男君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 民生委員さんからの情報も結構ございます。

ただ、町内会長さんとか区長さんからの情報はあまりございませんけれども、民生委員さんからの情報は結構ございます。ただ、何パーセントというふうな数字はとれておりません。

以上でございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

民営委員さんが見つけてくれて、上のほうに上がっていくというのを聞いて、少し安心をいたしました。

先ほど、和野部長さんがおっしゃった生活保護の段階というか、生活困窮者自立支援法に係る、該当するような方々への支援というのは、具体的に久慈市ではどのようなことをされているのですか。

○副議長（桑田鉄男君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） 生活困窮者自立相談支援事業でございますが、これは、制度が始まって3年目ですか。これは市が社会福祉協議会に委託をして、実施をしております。毎月、新規の相談者がやはり十数名ございまして、全体とすれば、1年間に百数十名の相談があるというふうな状況でございます。

社会福祉協議会が中心となりながら、市あるいは児童相談所とか、いろんな関係機関と情報を共有しながら、ケース会議を開いて、この方はどういうふうな支援がいいのかというふうなことを相談しております。

以上です。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） 障がい者支援についてです。

実は、子供たち、もう社会人ですね。社会人になった障害のある青年たちが集まって体を動かす機会があればいいなという話は、実は、特別支援学級で子供たちを指導している先生からの要望です。

学校にいる間は、自分の学校でも体を動かす機会がありますし、また、1年に1度、4市町村で、全部特

別支援学級に在籍している子供たち、あと親御さんが集まって、100人以上で市の体育館を借り切ってバスケットボールをしたりとか、ドッジボールをしたりとかという形で、本当に楽しそうに遊んでいます。

そういう機会を、何とか1年に1回でもいいので、場を設定していただけないか。もしかしたら、ふれあいスポーツフェスタというのがそれに当たるのかももしれないんですけど、ごめんなさい。私これを知らなくて、その辺はどうでしょうか。

○副議長（桑田鉄男君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） ふれあい交流スポーツフェスタの件でございますが、これは毎年1回、市民体育館で開催をしております。

昨年の平成28年の参加者数が111名ということでございます。内容とすればソフトバレーボールとか風船バレー、車椅子パン食い競争とか吹き矢などが種目でございますが、ただ、障がい者として把握をされている方が参加をしておりますけれども、学校が終わって、障がい者でもないけれどもうちにいるという方は、なかなか把握できない状況でございます。そういう方は、やはりいろんな情報を市のほうに寄せていただきまして、こちらからご案内するというふうな形になろうかと思えます。

以上です。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

どうやったらその情報が、実際、障害を持って働いてらっしゃる方に届くのか。何か方法を考えていければいいなというふうに思いました。これからもよろしくをお願いします。

4番ですが、久慈市議会だよりの企画で、議員と子育て中のお母さんとの話し合いの場で出た要望がこの2つのことでした。

偶然、お母さんたちは久慈市出身じゃなくて、転勤とか結婚を機に久慈市にいらしたということで、近くにお父さん、お母さんもないし、親戚の方もいない。だから、自分自身がぐあい悪くなったとき、SO Sの出しようがないということで、そういうことでした。でも、教えていただいて、すぐたくさんのごところが対応してくださっているというのがわかりましたので、それをお話していきたいと思えます。

情報を、そうすれば、子育て支援センターさんのと

ころとかで聞けばわかるようになっておりますか。

○副議長（桑田鉄男君） 和野生活福祉部長。

○生活福祉部長（和野一彦君） いろいろの情報誌はございますけども、そういうふうな情報をまとめたものを、子育て支援センターなり、あるいは必要な箇所に配置するような工夫はしてまいりたいと思っております。

以上です。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

同じ項目の2つ目の、実は、お母さんのちょっとした息抜きや用足しの間にという話があるんですけど、これは自分がいないときに家事をやってもらおうという意味でもありますし、この人たちは久慈の人じゃないので、久慈のことを知りたいし、それから、若くて1人目の子供だったりすれば、子供をどう育てていいとか、そういうことも相談できるような久慈の年配の子育て経験したようなお母さんたちが、もし、こういう家事代行とかをやってくださいるのであれば、本当にそこに頼りたいなという気持ちで話された文章でありました。もし、何かの機会に考えるところがあれば、よろしくお話ししたいと思います。

では、次に5番目に、災害に強いまちづくりなんですけれども、市長さんから、久慈川の中の橋より下流、それから、上の橋よりも上流の作業も順次取り組む予定だと県から聞いているというお話だったんですが、実は、地域の方から相談をされまして、久慈の川の上流がとても心配だということを、その方はおっしゃっていて、何がと言ったら、流木がごろごろころがっていると。

午前中の話もありましたし、きのうの話でもあるんですけど、それがまた、雨降って流されたら同じことが起きるだろうということで、せめて、その上流の河床にある流木を、橋げたに引っかからないぐらいの長さにまず切ったらどうだろうというようなお話なんです。そういう方法もあるんじゃないかと。ボランティアを募ってもいいだろうし、県がすぐ動けないようであればということなんです。そういう可能性というのはありますでしょうか。

○副議長（桑田鉄男君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 久慈川の上流のほうにあれば、久慈溪流とかのことなのかと想定してました

が、支障になるものについては撤去していくという河川管理者の話でございますので、今の提案も、確かに、撤去しましてそれを処分するとかって、いろいろ経費もかかるわけですが、小さめに切るというのも一つの策かなと思いますので、その辺も河川管理者のほうにお伝えしてみたいと思います。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） どうもありがとうございます。

これで終わりではなく、順次取り組むという県の方針でやっていただければ、すごくいいなと思います。

③の被災した個人所有の橋のことなんですけれども、山根のほうに行ってみましたら、中流で流された橋は、金属製のパイプで、応急的に橋をつくって、そこを利用してらっしゃる方たちがいました。

それから、霜畑に行きました。そしたら、個人所有かどうか、ちょっとあれなんですけど、霜畑営農研修館という建物があるんですけど、そのすぐそばの橋なんですけど、それは実は、宅地じゃなくて墓地に行く道路だったんですね。

流されたままになってまして、そばに座っていたおじいちゃんに話聞いたら、いや、納骨できなくて困ってた。2人分持ってたという話もありました。その橋の復旧の見通しがわかれば教えてください。

○副議長（桑田鉄男君） 鹿糠沢山形総合支所長。

○山形総合支所長（鹿糠沢光夫君） ご質問のありました場所は、実は、河川の工事が予定されると聞いております。その工事の進捗状況を見ながら、仮設の橋になるのかどうか、対応は市のほうでもやってまいりたいと思っております。

以上です。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

6番目です。駅前地下道の改修ですけれども、どんな状態かなと思って見に行ったら、ちょうど、市の土木課の方が来て、浮いているタイルに印をつけて、どれとどれが浮いているかとかというふうにしてやりましたんですけれども、維持補修という形で工事は進むというふうに理解してよろしいですか。

○副議長（桑田鉄男君） 滝沢建設部長。

○建設部長（滝沢重幸君） 今のタイルのほうの補修を、引き続きやっております。それが維持補修の分ですが、大きい意味で言いますと維持補修になるわけ

ですが、例えば、天井のはがれている部分の補修は、直営とか少額内示補修費ではできない範囲になってますので、それについては、久慈の補助事業を導入して、土木施設の延命ということで、いろいろ取り組んでいるわけですが、まず、その計画の中でやっていきたいと思っております。

後、照明につきましても、普通、球切れの交換とか、そういったものはこれまでもやってきたつもりなんですけど、33年経過しておりまして、もう灯具も古くなって交換の範囲を超えているということで、これを機会にLED化を検討して、一掃一新したいなというふうに考えております。今、財源確保に努めているところでございます。

○副議長（桑田鉄男君） 1番豊巻直子さん。

○1番（豊巻直子君） ありがとうございます。

照明が壊れていて、薄暗くて、やっぱり、ちょっと危ないなという感じがしましたので、取り組んでいたいてありがとうございます。

それでは、入学準備金についてです。

きのうの小野寺議員への答弁で、中学校は2月末の支給済で76名、それから、小学校にも触れられていて、これから検討ということだったので、小学校もランドセルとか、いろいろ買いそろえるものが多くて、ただ、収入の多分、確定が難しいということで、保育園等に協力してもらいながらやらなきゃいけないと思うんですけれども、大変だと思いますが、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。

あと、久慈市教育委員会衛生委員会についてということなんですけれども、昨年の末に計画を立てられて、そして1年間、ずっと時間外労働の労働時間の把握とか、それから教育委員会衛生委員会の立ち上げ、あと各学校への労働安全衛生法の周知、本当に粘り強く取り組まれてきたなというふうに思います。敬意を表します。ありがとうございます。

80時間以上の人数と100時間以上の人数なんですけど、これを調査したのが1月の分ということですね。1月というのは冬休みかかっておりまして、多分、これは超勤が出ない月、ほかの月をここで聞いてもいいかどうか、ちょっとわかんないんですけど、まず、80時間を超えた場合、どのように指導するかということについて、加藤教育長がお話ししてくださったような指導がなされているということで、とてもよかったなとい

うふうに思います。

1分を切ってしまいました。実は、ほかの市町村の教育委員会の衛生委員会も参考にしながらこれからのことを考えてみるというお話もありましたので、ひとつ奥州市で行われている内容についてお話をさせていただきます。

奥州市の教育委員会衛生委員会では、時間外労働の把握をした後、時間外労働の原因について分析をして、各学校で削れる仕事の洗い出し作業の取り組みをやっています。奥州はできて5年目ですけれども、それを受けて、各学校でも具体的に仕事の削減に取り組んでいるということでした。これからもまた、どうぞよろしくお願いいたします。終わります。

○副議長（桑田鉄男君） 再質問を打ち切ります。

~~~~~

#### 散会

○副議長（桑田鉄男君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。3月17日の本会議の会議時刻は、諸般の事情により、午後1時30分といたします。

本日はこれで散会いたします。

午後3時56分 散会